明治三十七年九月二十日發行
（明治二十一年本會創立）

婦人衛生雜誌

第百七拾八號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第百七拾八號　目次

●十月例會廣告

拜啓炎暑中休會の處秋冷の候に相成候に付**來十月一日**（第一土曜日）午後**正一時半**より晴雨に拘はらず例會を神田區一ッ橋通**女子職業學校内**に於て相開き左記の通講演有之候間萬障御繰合せ御知友御誘引御來會有之度候此段御案内申上候也

追而開會時間勵行●衣服は勤めて御質素に相願候

新療法オステオパシーに就て

米國女醫　ミスリード

通譯　本田增次郎君

滿洲丸に於ける觀戰談

醫學士　山根正次君

明治三十七年九月

私立大日本婦人衞生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならすや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんを皆ともに希はざるはあらざれども其身健康にあらざれば此生活を得んをいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいと緊要の事にして皆是婦人のもつはら擧るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは實に喜ばしきことなりされども[illegible]衛生の事に至りては更に注意を致さゞるものゝ如くまことに口惜しきことなり因て頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々を招請して衛生上諸般の講話演說談話を聽き互に相研究し衛生之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち物か同胞の爲めに益すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を敘べて廣く江湖の諸愛姉に告け其贊成を仰ふくこととしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則

（明治廿二年十一月改正）

●第一章　目的

第一條　本會の目的は汎く婦女子をして人々の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ以て社會一般の幸福を增進するにあり

●第二章　名稱位置

第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く

●第三章　會員

第三條　本會員たらんと欲する婦人は[illegible]

[illegible]

第十[illegible]條　會長副會長幹事評議員は毎年三月の總會に於て會員の投票を以て之[illegible]

[illegible]

本會雜誌を以て報告すべし第卅二條・會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし（郵券迄一錢迄）第卅三條 會費は東京府下に限り毎月領收人差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（麹町飯田橋通宛）振出しあるべし第卅四條 會員中若し本會の階害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若くは忠告することあるべし
第卅五條 本規則は會員の意見又は會員二十名以上の贊成に依り總會の決議を經るに非ざれば之を更正することを得ず

事務所 東京市麹町區飯田町六丁目二番地

私立大日本婦人衛生會

●役員姓名

總裁 東伏見宮依仁親王妃 周子殿下
會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 濱尾作子
（いろは順）
幹事 鳩山春子
仝 羽田三緒子
仝 岡田徳子
仝 高木かう子
仝 山木多穗子
仝 松平芳子
仝 三浦教子
評議員 伊集院しけ子
仝 石川貞子
仝 濱田捨子
仝 仁禮壽賀子
仝 西乃子
仝 穗積歌子
仝 緒方悦子
仝 岡山とし子
仝 男爵夫人 加藤鈴子
仝 片山龜子
仝 子爵夫人 田中いよ子
仝 丹波貞子
仝 高橋季子
仝 田村きよ子
仝 和田隆子
仝 男爵夫人 南部限子
仝 中濱芳子
仝 伯爵夫人 松平充子
仝 子爵夫人 松井正子
仝 子爵夫人 松平久子
仝 木場小いり子
仝 片□澄子
仝 三宅藤子
仝 宮木榮子
仝 宮下吹子

●支會 千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤

本會特別贊成員

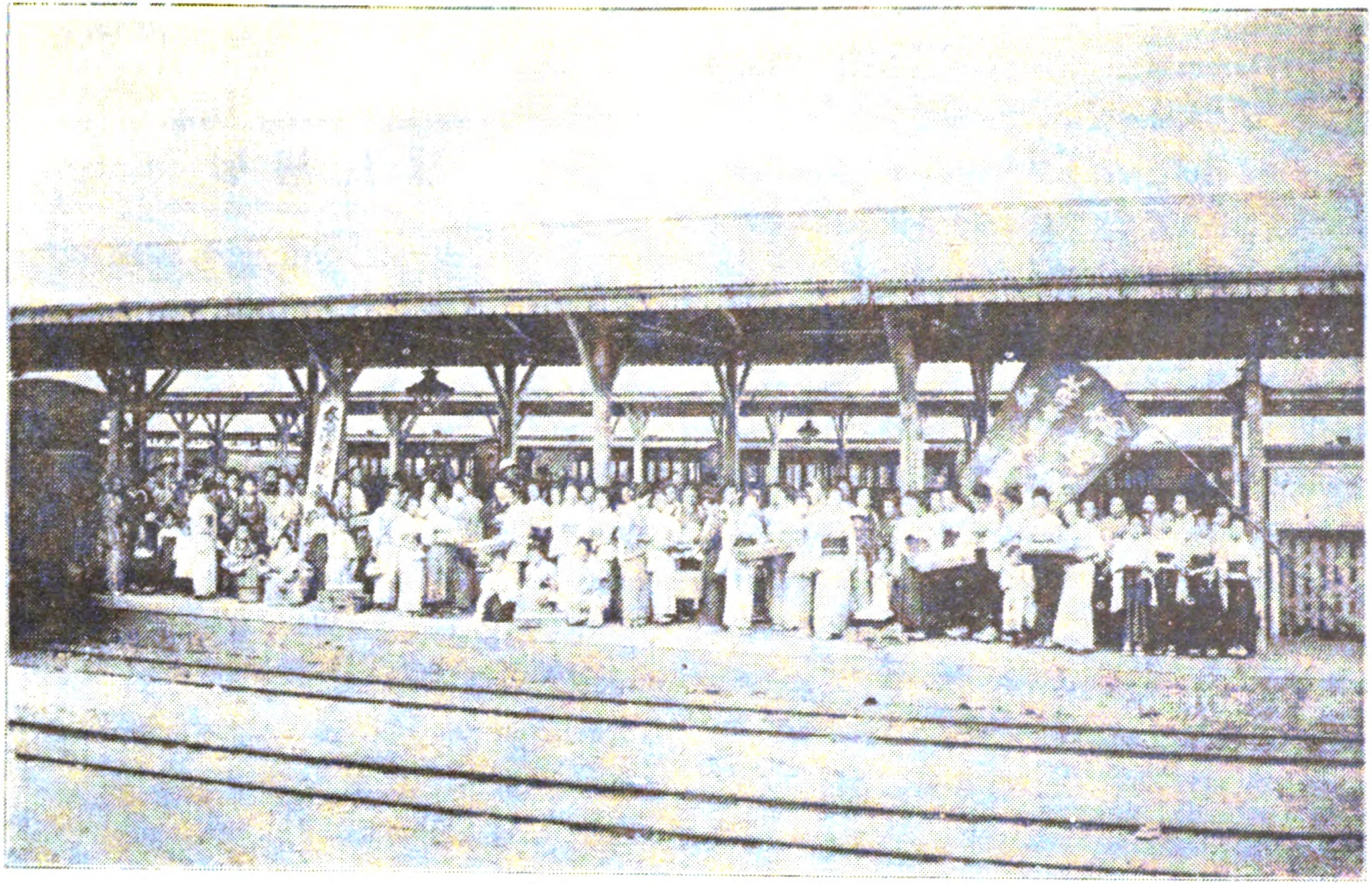
（●は日本會及支會に於て講演せられし諸氏）

醫學博士 ●入澤達吉君
理學博士 ●飯島魁君
ドクトル ●伊□信□君
●色川□□君
醫學士 ●伊東□□君
ドクトル ●□□□□君
醫學博士 ●伊藤□□君
理學博士 ●石川千代松君
ドクトルオブフィロソフィー ●若井□道君
醫學士 石原久君
貴族院議員 ●濱尾新君
醫學博士 ●濱田玄達君
法學博士 ●穗積八束君
東京 有賀長雄君
醫學士 ●長谷川泰君
衛生局長 ●長谷川□□君
新潟 小原□□君
小兒科醫學士 林□□君
醫學士 ●佐藤□□君
醫學士 ●緒方□□君
醫學博士 ●□□□□君

步兵中佐 ●堀内文次郎君
醫學博士 ●土肥慶藏君
醫學博士 ●岡田和一郎君
醫學博士 ●大澤謙二君
醫學博士 大西秀治君
醫學士 ●大澤岳太郎君
一等藥劑官 ●恩田正信君
醫學士 若杉喜三郎君
男爵 ●加藤弘之君
ドクトル ●加藤照麿君
醫學士 ●賀古鶴所君
醫學博士 ●河本重次郎君
醫學博士 ●片山國嘉君
醫學士 ●川上□□君
ドクトル ●金杉英五郎君
醫學博士 ●笠原光興君
ドクトル ●高橋順太郎君
醫學博士 ●高山紀齋君
法學博士 ●高木兼寛君
醫學士 ●高木□□君
新潟 田代義德君
男爵 田代亮助君
醫學士 高崎正風君
醫學士 竹中成憲君
新潟縣警部長 ●高田耕安君
藥學博士 ●高橋辰五郎君
醫學士 丹波敬三君
藥學博士 ●高橋貞純君
醫學士 ●田□□□君
醫學士 ●田村光吉君
醫學士 久保猪之吉君
三等軍醫正 米山□□君
醫學士 ●星野光□君
一等軍醫 ●宮本叔君
●櫻井郁二郎君

大日本教育會長 辻新次君
理學博士 ●坪井正五郎君
醫學博士 ●長與稱吉君
男爵 南部甕男君
藥學博士 ●長井長義君
醫學博士 ●中濱東一郎君
醫學士 榮木□□君
海軍少佐 ●小笠原長生君
醫學士 村松□□君
醫學博士 磯川□□君
醫學博士 栗本東明君
醫學士 ●山田□□君
醫學士 ●山田弘倫君
醫學博士 ●山根正次君
ドクトル ●山川□二君
醫學士 丸茂文良君
ドクトル ●丸山□四郎君
醫學士 ●松山陽太郎君
●此木信六郎君
盲唖學校長 ●小西信八君
ドクトル ●小泉□□君
ドクトル 古川□□君
醫學士 ●布施□□君
東京 ●後藤新平君
帝國大學教授 ●エ、ベルツ君
醫學士 ●甲野棐君
文部書記官 ●寺田勇吉君
子爵 ●秋元興朝君
前軍醫總監 ●足立寛君
ドクトル 新井春□君
ドクトル ●宮入□□君
高崎病院長 土谷□□君
看護婦學校長 永井□□君
ドクトル ●久保田□□君

醫學博士 ●佐々木政吉君
醫學士 ●淺田□□君
ドクトル ●朝倉文三君
ドクトル ●朝山義六君
高崎 秋田太郎君
醫學博士 佐藤三吉君
醫學士 櫻井郁二郎君
醫學士 佐藤恒久君
ドクトル ●佐伯理一郎君
ドクトル ●榊順次郎君
醫學士 榊保三郎君
醫學士 櫻井□次郎君
醫學博士 ●樋渕銳次君
醫學士 ●北村精造君
ドクトル ●北川乙二郎君
醫學士 ●木下正中君
醫學士 ●北島小太郎君
醫學博士 ●北里柴三郎君
醫學士 ●三浦謹之助君
醫學博士 ●三浦守治君
醫學博士 ●高木□仲君
小兒科專門 ●□島通吉君
理學博士 ●三宅□良君
醫學博士 ●三□信太郎君
醫學博士 ●土方久元君
醫學士 島村俊一君
伯爵 ●弘田長君
醫學士 ●須田卓爾君
醫學博士 ●ミス、エー、ス君
ドクトル ●森林太郎君
醫學博士 ●前川三□君
醫學士 ●波多野□男君
醫學士 矢□秀一君
醫學博士 守屋□□君
□學博士 □□□□君



出征軍隊通過ノ都度高崎支會々員大ニ軍隊ヲ犒フ

婦人衛生雜誌第百七拾八號

（明治三十七年九月二十日發行）

名家演壇

軍隊的衛生（武士的衛生）の一部を日本婦人に望む

陸軍步兵中佐　堀内文治郎君演説

例速記事務所員速記

今日は濱尾副會長の御依賴に依りまして、此處に皆さんと御會ひを致しまして、御話を致しますることは私の甚だ榮譽とする所でございます、で御話を致さうと思ひます事は、軍隊的衛生の一部分を日本の御婦人方に希望すると云ふ主意でございます、之を言ひ換へて申しますと、國が興つて行きます其の興つて行きます國の婦人の衛生は軍隊の衛生と或部分は一致しなければならないと云ふ自分の考でございます、自分は門外漢でございまして、衛生の事を彼此れ申しますのは甚だ鳴滸がましいことではございますが、軍隊の衛生といふことに就きましては、吾々軍人は一種の研究を致して居りますから、專門の衛生の上から申しますと門外漢ではございますが、軍隊の衛生の上から申せば吾々は職務上注意して居らなければならない事でございますから敢て申述べます

先づ門外漢なる自分の考で單簡に言ひますと普通の社會の皆さん達の衛生と軍人の衛生とは斯う云ふ所が違つて居ります、例へば普通の社會の人でありますれば今日のやうな暑い時は步かないで、涼しくなつてから步くが宜しい、さう云ふ衛生法を用ゐることが出來ます、併ながら吾々の方ではさう云ふ譯に往きませぬ、幾ら暑くとも、槍が降らうと火が降らうと何時までに何處まで行かなければならぬと云へばどんな事があつてもどんな汗にならうと倒れかぶろうと行かなければならぬ、併ながら其の不衛生的動作間に注意を要するのであります、それが即

ち軍隊の衛生であります、どうしても汗だらけにならなければならない、砂だらけにならねばならぬ然らば其汗になつた後をどうするか、乾いた着物に着替へて清潔な水で身體を拭くと云ふのは普通の衛生でありませう、けれどもそれは軍隊では出來ない事であります然らば汗になつた其の後をどうするか？それは是非乾かさんければならない、餘り風に當らぬやうな處で乾かせと言ひたひのでありますがそれは又出來ないのであります、幸に町とか村とか人家の在る處に參りますれば、風の當らぬ處で靜かに乾かすことも出來ますが、野外で、田畝で、何里行つても木も無ければ何にも無い處では仕方がありませんから、矢張り風に當つて乾す、唯其乾すのに直ぐ休止つて仕舞つてはいけない、幾ら疲勞ても直ぐ休止つて仕舞つてはいけない徐にブラリ〳〵身體を動かして立つて居つて、さうして自然に自分の發動體溫て乾かすやうにしなければならない、自分の發動體溫と自動精神とに依て風にも抵抗し打ち勝たねばならぬ、斯う云ふやうな所が普通の衛生とは違ひます、それで近く例を舉げて申しますと、此間の得利寺あたりの戰爭でも彼地では、あの時分でも日中は日本よりも暑うございます、少くても九十度以上の暑さ位ゐにはなつて居ります、それでも日本の軍隊はまだ冬服を着て居りました、咸ではないか知りませぬが着て居つたのが大分あると思ひます、九十度以上の暑さの處で山も越え川も渡りそれから夜は皆な露天でございます、さう云ふやうな所でどうして乾かす、どう云ふ風な衛生をしたらば宜かと云ふことを御考下さることを望むのであります、極端に言ひますればさう云ふ處では衛生は無いと言はなければなりませぬ、併ながら其處が軍隊の衛生の注意を要する大事な所であります。

先づ第一に軍隊の衛生に必要なるのは精神であります、もうどんなに暑からうと是は國家の爲である、自分が今此處で身體を損ずることがあつたならば日本國の軍隊の上に關係する、自分は國家の爲に斃れ

るまで何處までもやらなければならない、斯う云ふ自分の精神が一番軍隊の衛生の非ゐを爲します、それて汗だらけになり、又昨日の朝食つたばかりで其後飯を食はぬと云ふやうな時でも、今申上げたやうな精神が自分の血の循環を助け、自分の肉體の保養を扶けて精神が吾々の衛生をやつて吳れます、飯も食へない、水も飲めない、加之汗だらけになつた衣服てもそれを苦にしてはいけない、是は何と云つた所が自ら獨り飲食物を求めると云ふとは出來ない衣類も一枚より外に無いのでありますから、それを苦にしないで、先づそれよりは自分はどうしても、自分の任務を盡さうと云ふ考を先にして、さうして自分の精神を鼓舞させると云ふやうな衛生をします、普通の衛生で言ひますれば、何もそんなに飯を食はないで居る必要もありませぬし、汗だらけになつた衣服を何時までも着て居る必要もないのであります、皆不衛生な事でありますが軍隊に於ては已を得ない仕方がない中で其の場合に應ずるだけの衛生をしなければならぬのであります、其の衛生が普通の衛生とは違つて居る所でありますが右の如き意味有の如き精神の衛生の一部分を我日本帝國の御婦人方に希望するのであります。

例へば皆さんの御子さんなどに男の子がある、其男の子に向つてこんな暑い時に戸外に出てはいけない――それはさう言はれるのが必要でありませう、併ながら或場合には斯樣な暑い時でも用を御吩咐になることを望みます、是れから何處へ行つて來い車に乘つてはいけないと云ふ位ゐにして或場合には汗だらけになつて歩かせることを希望するのであります、それから傘でもさうでありますが、無闇に腦が惡くなるから傘を翳して行けと云ふやうなことも、それは通常の注意としては宜くありますが、如何な炎天でも、少し位ひ日に當つたからと云ふて頭腦が惡くなるやうな身體にしたくないのであります、それでありますから此位の暑氣では傘などを翳して行かぬでも宜しい、と云ふ樣な注意を望む

のであります、それからもう一つ例を言ひますれば冬などでも寒いから頸巻をして行けと云ふやうなことは止して頂きたい、寧ろ寒ければ少し駈けろ、一町か二町駈ければ暑くなる、斯う云ふやうに教育をして貰ひたいのであります。

先づ一二の例を舉げますれば以上述べましたやうな事であります、無論それ等の注意は既に皆さん行つてお居でになることゝ信じます、併ながら段々普通の衛生が盛になつて參りますと、さう云ふやうな武士的衛生の範圍が縮まりはせぬかと云ふ憂へが自分等は軍人としてあるのであります、餘り直言過ぎるかも知りませぬが、華族さんの子弟とか、金持の子弟とか云ふ者は、同一行軍に於て比較的早く弱るのであります、是は何故かと云ふと軍隊的衛生武士的衛生が不足して居るからだらうと思ふのであります、それで是れは日本の者と歐米の者とを比べると直ぐ分るだらうと思ひます、日本では男でも大概傘を翳して歩きます、併ながら歐羅巴人は、比較して御覽になつても直ぐ分るが傘を翳して歩く者は少いやうに思います、冬でもさうです、日本の人はまだ四五十度位の寒さでも外套を着て、ブル〳〵慄へて居ります、歐羅巴人も着ることは着ますけれども日本人の割合には着ないやうに思ひます、是等はチヨツとしたことでありますが能く御注意下さいますれば歐米諸國の興つて行く國に於ては幾程に軍隊的武士的衛生が反て日本の本家より届いて居つて良き強き習慣となつて居る様に思はれます日本でも勿論昔はあつたのでございます、巴御前でも誰でも、皆な男と同じやうに戰場にも臨んで居ります、如何なる婦人でも皆な九寸五分を持つて居つたのでございます、鎖鎌も習つて居つたのでございます、それであるからどうも昔の人の方が強いやうです、私共の阿母さんよりは祖母さんのやうな老人の方が強いやうです、叱言を言のでもしつかりして居るやうです、押せば潰れるやうな風をして居りますが何處かしつかりして居るやうです、是等は能く研究しますと、

軍隊的武士的衛生が大變な原因をして居ると思ひます、それで或人は日本人をもう少し強くするには、人力車を皆な廢めて仕舞はなければいかぬ、と云ふた人がありますが、極端に云へばそんなものかも知れませぬ、それから近頃彼の電車が大變諸方に出來るので、胃病を患ふ者が多くなつたと云ふ事が二三日前の新聞にありましたが、是れは即ち電車が軍隊的衛生の防害をするので、吾々から言ふと彼の電車は壞して仕舞ひたいのであります(笑聲起る)まアさう云ふ割合になるのであります、一方の普通の衛生から言ふたならば成るたけ暑い時には歩かすに電車に乘れと云ふことになるのでありませう、併ながら其の衛生が果して眞の衛生であるかどうかと云ふことは其の結果を考へて見たらお分りになると思ひます、電車に乘つたら必ず涼しくつて宜いでありませう、汗は出ないでありませう、けれども其のかはり直ぐ翌日から胃病になつてペコ〳〵しなければならない、さう云ふ風でありますから此の衛生と云ふことに付ては、餘程深く永遠の結果はどうなるか、如何なる現象を見はすかと云ふことを能く考へて行らなかつたならば遂には一國をも滅して仕舞ふことになるだらうと思ひます。

永田町邊を歩いて見ると皆さんの御覽の通り、彼處の空地で運動をして居る、女でも男でも襯衣一枚になつて汗をダラ〳〵流してやつて居ります、あゝ云ふ事はまだ日本人には餘り愉快に思へぬやうでありますが、日本に於てもあゝ云ふ事が自然に習慣となつて、非常に強い國民を作る、強い國民を作ると云ふのは決して野蠻の國民と云ふ意味ではありませぬ、少し位ゐ暑いから寒いからと云つて身體が弱ると云ふやうな國民ではいけない、健康な國民を作らなければならぬと云ふことが習慣になつて、健康な子供を持たぬと自分の恥である、不健康な身體を持つて居る者は自分の一生の恥であると云ふやうな習慣を段々作つて行くやうになりましたならば自分等の希望します軍隊的衛生と一致するやうになるだら

うと思ひます。

吾々の同盟國たる英吉利あたりの人民は運動好の人民であつて、私は一昨年天津へ參りましたが、天津あたりは零下十度二十度と云ふ寒い土地であるが、それでも英吉利人は襯衣一枚になつて汗を出してフートボールをやつて居ります、それから立派な運動場があつて御婦人もあれば夫婦連もあり、又子供なども連れて行つて樂隊を奏つて盛んに運動をして居ります、さう云ふやうな習慣は我が同盟國の英吉利人が先立て教えて居ります、それでありますから英國人民は彼の通りに勃興して行く、それは日本でも同じことだらうと思ひます、例へば平家の武者は白粉やお鐵漿などを附けて滅びる、源氏の鎌倉武士は彼の通り興つて行きます、それはなる程或點から言ひますと、優美の點とか高尚な點は鎌倉武士はいけませぬ、それは直さなければ不可ませぬけれども、極く健康な身體を作ると云ふ方から言ふと鎌倉武士的でないといけませぬ、今文明の今日で比較をしたならば英吉利あたりの人民は鎌倉武士の方であると思ひます、アングロサクソンの人民の興つていくのは、鎌倉武士が興つて行くのと同一轍だらうと思ひます、又それらの人の行る衛生は即ち自分が申上げた軍隊的衛生の一部分が行はれて居るのと確信を致します。

それで此の軍隊的衛生は、啻に兵隊になる爲に希望する譯ではありませぬ、如何いふ商賣を爲さらうと、如何いふ工業を爲さらうと、矢張り皆軍隊的衛生が必要だらうと思ひます、商業人だからと云ふて、如何な暑い處へでも、如何な寒い處へでも行つて、十分に忍耐をしてやらなかつたならば十分な事業は出來ないのであります、同じ事であります、寧ろ軍人よりも必要だらうと思ひます。それは今度日露戰爭の結果、今後滿洲それから遼河の上流の方、或は黑龍江の沿岸鴨緑江の沿岸等に色々な儲仕事があります、併し皆な健康な身體を持つて行つてやらなかつたならば、十分な金儲は出來ないと思ひます、そ

れ故に私の申します軍隊的衛生と云ふことは決して軍人ばかり必要でないのであります、一般の人でも非常に必要であります、併ながらそれは矢張皆さん方御婦人の平生の軍隊的衛生の御心掛が基ゐになるのであると思ひます。

私が今英吉利人を賞めました例が決して嘘でないと云ふことは、皆さんも新聞で御承知の通り彼英國から御遣しになつたマッコール孃、彼人あたりが此暑いのにも拘らず戰地を歩いて居ります、先達安東縣に來りました時は、安東縣の病院を見て、其日は非常な雨降であつて彼の邊の道は膝ぐらゐも入るやうな惡い道にも拘らず、あれから有名な九連城の摺鉢山の戰鬪跡へ行つて見たのであります、それは一里餘二里もあるだらうと思ひますが馬に乘つて行つて居ります、あの道の惡い所で、一日も休まずにさう云ふやうな男でも一寸躊躇するやうな事を彼等の人はやつて居ります、それから歸ると鴨緑江の向ふの義州の病院へ行つて見舞つて居ります、斯う云ふやうな事は到底普通の衛生、極く惰弱の習慣を附けて居る國民では出來ない事でありますが彼のマッコール孃などはそれ等の事を平氣でやつて居ります、是は全く英吉利あたりの總ての衛生に私の申します軍隊的衛生の一部分が行はれて居ると云ふ十分なる證明だらうと思ひます、それから又亞米利加から來られました有志看護婦、彼の人々は病院船に乘りたいと云ふ希望を有つて居られる、私共は船には極く弱い方でありますが、更に外國から來て病院船に乘つて船の中で看護をしたいと云ふやうなことは、之を能く分析して見ますと、矢張り其源は前にも申しましたやうな、軍隊的衛生が其の思想を支配して健全なる體力を爲して居るからだらうと思ひます、それから、是は敵の方の例ではありますが皆さん御承知の通り露西亞の「ピセップ」と云ふ婦人は偵察任務に從事することを願ひ出て滿州派遣の歩兵第一聯隊の志願兵として出て行つたと云ふことが新聞に出て居りました、是れは「ベンジロップ」と云ふ大佐の娘

だと云ふことてあります、或は何かの間違かも知れませぬが、兎に角露西亞の婦人が從軍を希望して出たと云ふことも確であらうと思ひます、是は決して賞めた事ではありませぬ、皆さんに巴御前のやうに御出掛け下さいと云ふのではありませぬ、それは御安心下さい、吾々が充分やります、併ながら斯う云ふやうな氣性……さうかと云ふて無暗ヤタラニ薙刀などを振廻されても困りますが、斯う云ふ樣な氣性……シッカリシタ注意を以て皆さんの頭が支配されむことを希望するのであります、

御婦人方の衛生思想が國民を何う云ふ風に作り何う云ふ風に變化せしむるかと云ふことは極めて近邊に手本を示して居ります、朝鮮と支那を御覽なさいまし、朝鮮の男子と云ふものは殆ど男子でありませぬ、それてありますからして國は彼の通りになつて仕舞ひました、併しそれは男子ばから見ては不可ないと思ひます、朝鮮の女はどうかと云ふと、まるて思想の發達しない、即ち軍隊的衛生どころてはない、總ての衛生の注意が缺けて居りますからして、從つてあゝ云ふ惰弱の國民を作るやうになつて仕舞ひました、支那を御覽なさいまし、支那の女は幼い時から足を小さく括つて居りますから、殆ど歩けないやうになつて居ります、家の外へ出ないのが支那の女の習慣になつて居ります、全く衛生思想は無いと言つて宜いのであります、殊に軍隊的衛生と云ふことは更に無いのであります、さう云ふ婦人でありますから、其思想も極く薄弱で、少しても大きな聲を出せば驚くとか、ひどい目に遭へば直ぐ泣出すとか、云ふ有樣であります是れは男も悪いのでありますけれども、女が矢張りさう云ふ風でありますから、段々弱い國民となつて仕舞ひます、然るに一方を見ると歐米人は女は男と同樣に運動をして居る、それ等を比較して御覽になれば軍隊的衛生と云ふ意味が文明非文明を如何に現はし來るか能く御分りになるだらうと思ひます、

軍隊的衛生の思想を持たずに教育された者の不幸な

結果は斯う云ふやうな例があります、今度軍隊に入つて來ました者を見ますると、同じ仕事をしますのでも、平生家庭に於て壯快な教育を受け、健康な身體を與へられて居りますと云ふと、何か仕事をしましても、さう難儀無しに愉快に出來ますが、家庭に於て惰弱な習慣を受けて育つた者は人よりも數倍の難儀をしなければならない、さうして或點に行けば到底自分の身體が堪えずして病氣になつて仕舞ふやうなことがあります、これ等は其人の不幸ではありますけれども、遡つて研究して見ますと、其の家庭の教育が惡いのでございます、どうしても今日以後は不具でない以上は一通は軍隊に入るのであります、縱し軍隊に入らないにしても社會に立つて立派に働かなければならぬ人が、自分の家庭の教育上に於て衞生上の缺點があつたならば折角の希望も遂することは難いのであります、其家庭に於て一番責任の重いのは母であります、母の注意が惡かつた爲に、日射には出ない、又寒い時には頭巻で包んで歩くとか、少しでも寒い所に出ると風を引くと云ふ風に育てられると、後に自分が社會に出て仕事をする時に身體を壞して仕舞はなければならぬと云ふことになります、今度の戰爭に出て居る人でも、さう云ふやうな家庭の爲に自分が不幸な位地に陷つて居る人が隨分澤山あります、それ等は却て勞働社會とか中以下の者には少ないのであります、中以下の者は惡く言へば無教育で無衞生でありますけれども、或點から申しますれば自然に軍隊的衞生はやつて居ることがあります、例へば車夫などは乘つて居ても暑くつて堪らない中を一生懸命驅けて行きます、是は少し極端な例ではありますけれども、さう云ふやうに車夫なんかは幾ら驅けて倒れない、自分は車の上に乘つて居ても眼が眩ると云ふのは如何いふ所が違ふかと云ふことを御研究下されたならば有益なる衞生の眞意味の一部分は御分りになるだらうと思ひます、此の軍隊的衞生と云ふ字を使ひますと、何だか妙に思ひますけれども、換言すれば與つて行く國の人民

の爲すべき衞生と云ふても宜いと思ひますからして軍隊的衞生の一部分が盛に巧く行はるれば、我が日本の如きも是れから益々進んで世界の第一等國をも凌ぐやうになるだらうと思ひます、單に軍人のみが强くなるばかりでなく、總ての實業に從事して居られる人達が、皆なさう云ふ健康な身體を有ち、健康な思想を有つやうになると信じます、所で其基ひを作るのは誰かと云ふと多く御婦人であります、御婦人が其家庭に於ける教育の注意如何に因つてさうなるのであります、此の事柄は實に微妙で、それが現はれて行つて結構なる國風を爲し、我が日本國を益隆盛ならしむる原因を爲すのでありますから私は切に皆さんに此軍隊的衞生即武士的衞生の一部分を實行せられんことを希望する次第であります、

終りに臨みまして更らに繰り返し希望しますが此武士的衞生と云ふ事は我國往昔からの美風の一でありまして其最も必要なる要素は精神でありまする或る點から分り易く申せば大和魂が此軍隊的衞生即武士的衞生の根底を爲すのでありますから此深遠なる意味のある處を能く御推察下されて私の希望を充たす樣に願ひたいのであります誠に自分ながら分らぬ程錯雜した申述べ樣で諸君の御耳を汚しました罪を深く謝します、

第二講話

戰時の衞生（於本會）

醫學博士　中濱東一郎君演說

側速記事務所員速記

私は「戰時の衞生」と題しまして御方々の清聽を煩はさうと考へます。

唯今島田君が擧國一致を以て敵に當らなければならぬと云ふ御說がございましたが、誠に至當の事でございまして、今日は各々分業の時代でありますから、昔とは違ひまする、昔は武士の外に武士の家に居ります婦女子までも薙刀を持ち、弓矢を携へて戰

場へ出た例しがあつたさうでございますが、今日は各々業務を異にしまして、戰爭に出る人は戰爭に出る人、又家を守る者は家を守る者として、自から皆其長所に就いて働く、所謂分業になつて居ります、それ故に舉國一致敵に當ると申しました所が、日本の人民が上下舉つて弓矢を携へて戰場へ臨むと云ふことは出來ませぬ、自から戰爭に出る人はこれだけの専門的の教育を要します、又他の方面には戰爭に出る人の出來ない事がある、即ち國の獨立、國の健全の爲には、軍人の出來ない事で他の人々の手を借りなければならぬ事もございます故に、丁度昔は刀鍛冶がありますれば鐵までも刀鍛冶が自分で鍛へました、さうして其鍛へ方の巧拙に依りまして名刀も出來ると云ふことでありました、所が今日はさうでございませぬて、鐵を鍛へる者は鐵ばかり鍛へて居ります、それから鐵の細工をする者は鐵の細工だけを致すと云ふやうに、まるで元と違ひまして世の中が段々進むに從つて分業と云ふことになつて參りました、右の次第でございます故に、舉國一致敵に當ると申しましても人民皆悉く戰場に出るといふ意味でなく軍人には戰鬪に從事して貰ひ其他の人々は自分等の長所を以て國の健全を圖らなければならぬといふのであります。

そこで戰時の衞生と申しますれば、何か別段に衞生の方法があるかに御聽きになるか知れぬが、決してさう云ふ譯ではございませぬ、戰時の衞生と言つた所が、矢張り人の健康を保護すると云ふのが終局の目的でございます故に、平時の時に必要なる衞生の事は矢張り戰場に於ても同じく必要でありまして、別段に平時戰爭の區別は決して其間に無い次第でございます、併ながら戰時に於きましては多數の軍隊が一箇所に集合いたしまして、平生と違つて衣食も十分に供給することが出來ず、甚しきに至つては雪中原野に露營いたさなければならぬこともあり、又鐵を鎔かす如き夏の暑さに、五里も六里も日中行軍を致さなければならぬ場合もございまして、已むを

得ず知らず識らずして不攝生な事になります、それ故に軍隊に於ての病人は、平生よりは餘程增加いたします、取分け軍隊中に於て恐るべきものは傳染病でございまして、豫防の事や或は消毒など丶云ふ事は片方に敵を控えて居りますからして中々思ふやうにいかぬのでございまして、從つて傳染病が軍隊中に流行する、戰爭に傳染病は免れぬものであると云ふ位に以前は稱へたものでありまして、或る著しい傳染病は戰爭病であると云ふた位のものでございます、こ丶を以て多くの大戰爭に際しては、敵味方の區別なく敵の彈丸に當りまして斃れたり、或は負傷の爲に治療が叶ひませぬて死にましたもの、所謂戰死者とそれから病死者と較べて見ますと、病氣て死んだ者の方が遙に多數でございます、一二の例外はありますけれども、大抵の場合に於ては戰死者よりは病死者の數が餘計であると云ふのが普通の例でございます。

それて近い戰鬪に於ての死亡者の數を調べて參りましたからそれを、御參考までに述べやうと思ひます。

第一に土耳其と露西亞の戰爭所謂クリミヤの戰爭、是は安政元年から同二年まで二年間續きました有名な戰爭でございます、此時には土耳其の加勢として英吉利と佛蘭西の兵が出ましたので、此三國が聯合いたして露軍に當つたのでございます、然るに此時には虎列刺が非常に流行りました、露軍にも固よりございましたが、英吉利や佛蘭西の軍隊中に虎列刺が非常に流行いたしました、英吉利の軍隊では戰死と負傷の後死亡したのと合せて僅に四千六百五人であります、僅かではありませぬが他の數と較べると僅かであつて、四千六百五人が彈丸の爲に死んだのでございます、所が病死したのはどれ位であるかと云ふと、之に反して一萬七千五百八十人あつた、非常な相違でございます、さうすると敵の彈丸に依つて百人斃れたとすると、病氣に依つて死んだ者が三百八十人、殆ど四倍も餘計死んで居ります、それから佛蘭西の軍隊は戰死いたした者が二萬二百四十

人、病氣て死んだ者が凡そ八萬からてございます、是も四倍ほど病死者が餘計でございます。それから文久元年から慶應元年に渉り即ち五箇年間續きました北米合衆國の内亂ではどうでありましたか、此戰爭の時は戰死者即ち彈丸に依つて斃れた者が九萬三千餘人、それから病死者は凡そ十九萬程でございました、さうすると十萬人ほど病死者の方が餘計あつた、口でこそチヨツト十萬人と申しますけれども、十萬人の人を病死せしむると云ふことは餘程のことでありまして、實に慘狀極まる次第でございます。

それから其後慶應二年、是は普魯士と澳地利の戰爭、是は戰鬪は激烈であつたが僅か二箇月ばかりで平和の約束を結んで仕舞ひました、是は幸に戰鬪が短かうございましたから左程病死者も餘計でありませぬだつたが、併ながら尚ほ戰死者よりは病死者の方が餘計でございました、即ち孛國及び其聯合軍の戰死者は四千四百五十人、病死者が六千四百人程でございました。

一つ例外なのは明治三年から翌年の明治四年に渉つたる獨逸と佛蘭西の戰鬪でございます、是は戰鬪の激烈なることは古今無比だと云ふ位の噂でございましたが、此時が始めて例外でありました、戰死者の方が病死者よりは餘計でありました、幸に虎列剌の流行が無い爲に右の如き良い成績を得たのでありませうが、又一つには戰爭の激しい爲に敵の彈丸に依つて斃れた者が餘計であつたと思ひます、此時獨逸軍の戰死者は二萬六千餘人、病死者が一萬四千餘人で、病死者の方が殆ど半數であります、是は例外であります。

それから明治十年から十一年に渉る再び露西亞と土耳其の戰爭であります、是は二年掛りました、此時には露西亞國の軍隊に於ては僅か千九百七十五人しか戰死しませぬ、所が病氣の爲に死んだ者が三萬五千四百六十六人、非常な病死者の數でありました、即ち百人彈丸に依つて斃れたとしますると、千七百

九十五人が病氣て死んだ譯になりまして、病死者の方が戰死者より十八倍ほど餘計でありました、夥しいものでございます。

是れより少しく我國の戰爭に就て述んに明治七年の臺灣の時はどうでありました、是は臺灣の蕃族が琉球の漂流民を殺して食つたと云ふ、ひどい人民があるものでございますな、そこで臺灣は支那の領分でありましたから、日本政府から支那政府へ掛合つた所が一向埒が明きませぬ、それで到頭日本國自から進んで蕃人を懲すと云ふことになつて臺灣へ出兵いたしました、是は戰鬪と申す程の事はありませぬだつたが、蕃族と少しづゝの衝突はありました、けれども戰死者即ち蕃族に殺された者は僅か十人しか無かつた、所で病死した者はどの位あるかと云ふと五百七十四人ございました、丁度百人敵の爲に殺されたとすると、五千七百四十人病死いたした割合になつて居る、實に夥しい次第でございます。

それから明治十年の西南の役、是は皆さん御承知の西郷の戰爭、鹿兒島の役でありますが、戰鬪の甚だしい爲でありましたか、例の田原坂の戰鬪などは僅か一局部の戰ひでありましたが、官軍ばかりが三千人はかりも死んで居ります、かく激戰の多き爲めであらふと思はれますが丁度獨逸佛蘭西の戰爭に於ける獨逸軍の如くに、明治十年の官軍の死亡は戰死者の方が病死者よりは餘程餘計でございました、おまけに此時には虎列剌が大層流行いたしまして、官軍の中で凱旋しても途中若くは歸つてから虎列剌の爲に斃れた者が非常に多い、此時には醫者も不十分でありました、丁度私は大學に居りましたが、未だ醫者にならない學生を、戰地まては遣りませぬが、軍隊が大勢集合して居る所へ遣つて使つた位であります、それてありますから一方には虎列剌が流行り、一方には醫者が足りないと云ふので、今日ならば治るべき患者も此時には澤山斃れたのであります、かかる慘狀があるにも拘らず戰死者が病死者よりも餘計であつたのは全く戰鬪が激しかつた爲でありまし

て、戰死者が六千八百四十三人、それから疾病自殺者等を合せると一千二百三人でございました、是は餘程病死者の方が少ない、先づ是は例外でございます。

それから明治二十七八年の日清事件の時はどうでありましたか、是は御承知の通り虎列剌が大層流行いたしまして、それに虎列剌ばかりでなく赤痢も腸窒扶斯も、我が軍隊中にも支那の軍隊中にも流行して、是が爲に多數の死亡者を出しました、それで我が軍隊中の戰死者はどの位あつたかと云ふと、即ち敵の彈丸に依つて斃れた者が僅に一千四百人計りで、是だけが直接に戰鬪に依つて斃れた人數であります、尤も是は凡その數でございますが、併し大體は此通りであります、それから疾病に依つて斃れた者が一萬四千人ほど、丁度十倍ばかり戰死者よりは疾病に依つて斃れた者の方が餘計ございました、丁度百人戰鬪に依つて斃れたとすると、千人が疾病の爲に斃れた割合になります、此重なる原因は虎列剌と腸窒扶斯と赤痢でありまして、戰鬪中十分に注意が行屆きませぬこともございましたらうが、內地までも此年には虎列剌の流行を來して、非常な死亡者を出しました。

右の次第でございますから、戰爭中に特別に衞生上注意いたすべき事は傳染病の豫防でございます、是と申した所が平素の豫防法と異つた事はございませぬが、國民は特別に此の病氣の豫防には注意しなければならぬと思ひます、戰死者よりは病死者の方が十倍も餘計であると云ふことは、是は死んだ數でありますが、今の通り一万四千人病氣で死んだとしてある、併し是は病人の數ではない、死んだ者の數が一万四千人でありますから、病人の治る方が餘計でありましても、虎列剌に罹つた者が悉く死ぬものではございませぬ、總ての病人を集めて見ると先づ三十倍は餘計あらうと思ひます、即ちチヨツトした病氣で休まぬやうな輕症も入れると三十倍も餘計あ

らうと思ひます、先づ三十人に一人位の割合で病人は死ぬものでありますから、さうすると、一万四千人の病死者があると云ふと、三十万人以上の患者が出來る割合でございます、日清事件の時には三十万人の兵は出ませぬだッたが、一人が度々病氣に罹つたものもありました故に死亡の割合は甚だ多ひ。コレラ」等の傳染病が流行しましたけれども患者數は死亡者の四五倍はありました事と思はれます、それ故に若しも軍隊中に傳染病が流行したり、或は種々の病人が生ずると非常に戰鬪力が減じます、一人病人が出來ると捨て置けませぬから、看護人も要するし醫者も要すると云ふ樣になります。それには藥をやらなければならぬ、滋養品もやらなければならぬ、家屋も相當に設けなければならぬ、臥具等も特別に供給しなければならぬ、それであるから病人が出來ると其爲に健康な人が其病人の世話をしなければならぬから、多數の病人が出れば健康な者までも多數其方へ吸取られて仕舞ふから、敵前に臨んで戰鬪をする者の勢力を著しく殺ぐことになります、丁度明治二十八年、此年の初めには内地にはまだ虎列剌の流行を見ませんだつた、所が支那に居る所の日本の軍隊中には折々虎列剌のやうな病氣が出沒すると云ふことを始終其當時聞いて居りまして誠に心配に堪えませぬてあつた、所が同年の三月十九日の夜でございましたが、福岡縣の知事から内務大臣に向つて福岡縣の門司に數日來妙な病氣が發生いたして、虎列剌のやうな病症でもッて大抵死んで仕舞つた、斯う云ふ電報が參りました、丁度私は其當時内務省に勤めて居りまして其話を聞きましたから、翌日參つて種々相談いたした所が、兎に角行つたら宜からうと云ふので、私は翌二十日に急いで東京を發しました、其時は汽車がまだ廣島までしかありませぬて、あとは餘程難儀を致しまして、丁度二十四日に門司へ着しました然るに、門司で大騷をなし何でも虎列剌らしいと認めた。患者は大概死絶えて仕舞ッて二人だけ殘つて居る、其二人は避病院へ入ッて

治り掛けて居る、私も實地に就き親しく診察しましたが其時は已に快復いたしまして虎列剌の徴候を呈しませなんだそれから丁度其時に戰地からして軍隊の一部分が門司に着き、向ふへ見える彥嶋と云ふ所があります、其嶋に避病院があるから、其避病院へ船から病人を揚げたと云ふ、ことを聞き込ましたから其避病院へ行つて見ると二十八人入院して居つた、病室へ行つて見ると或室は二人病人が枕を並べて寢て居ッて、一人はもう冷たくなつて息も無い、一人は呻唸つて居る、そこで段々見た所が立派な列虎刺病でありまして、看護婦に聞いて見ると先刻まて生きて居つたが何時死んだか分らないと云ふやうな激烈な病氣であつた、段々研究した所が是は立派な虎列刺であつた、それから私は門司へ引返して參りました時に、例の御承知の馬關へ來て居つた李鴻章が、其時丁度狂漢の爲にピストルを以て目の下を擊たれたと云ふ騷ぎ、片方は虎列刺である、片方はさう云ふやうな凶變が起つたと云ふので、門司と馬關の間は大騷ぎであつた、其中に段々虎列刺が馬關にも流行し、門司にも流行し、全國の大流行となりまして非常な死亡者を出したのであります。

斯う云ふやうな譯で軍隊に付ての衞生上注意すべき事は傳染病でありますが、併し軍隊中の衞生上の注意は自から其機關がありまして敢て我々の喙を容れる所ではありませぬ、即ち外國からして、或は戰地に發した爲に軍隊中に傳染病が慘狀を極めたと云ふことは、是は已むことを得ませぬて、我々普通の人民は喙を容れる所ではありませぬが、若しも反對に日本の內地からして傳染病を軍隊へ持つて行かせて、さうして日本に在る病毒を軍隊に傳播させてそれが爲に戰鬪力を殺がせたと云ふことになると、普通の人民は實に申譯のない話である、手を下して殺しは致しませぬが、自分等の國、親子を守つて吳れる軍隊を間接に手を下して殺すと云ふやうな結果になります、それ故にどうか內地に在る傳染病は軍隊に移したくないと考へます、軍隊中に發生して內

地へ輸入したと云ふことは、是は已むを得ないけれども、逆に内地から軍隊に傳染病を移すと云ふことは斷じて致したくないと思ひます、さう云ふ覺悟て傳染病の豫防に掛らなければならぬが、今年は誠にいやな前兆がございまして、或は内地に發する傳染病を出征軍人の間に送るやうな不幸を來しはしないか、誠に寒心に堪えぬ事がございます、それは何かと云ふと御方々も多分御承知になりましたらうが、九州地方に疱瘡が流行して居ることであります、是までは誠に種痘が行はれたと思つて我々安心いたして居りまして、又年々疱瘡の患者、即ち天然痘の患者は誠に少なかつた、全國中僅か百人位でありました、是は死亡てはありませぬ、患者數が全國合せても僅か百名位に止まつて居りました、所が今年長崎縣下に天然痘患者を發しましたのは中々澤山でございます、私は昨日内務省から表を貰ひましたが、今年の一月から本月の五月初めまでに五百三十一人ありました、平生は僅かの數であるのに、今年は長崎縣だけて五月四日まで、まだ半年にも足らぬのに既に五百三十一人の多數の患者を出しました、甚しきに至ると四月の九日には一日の間に五十三名の新患者を發生しました、長崎縣だけて斯う云ふ次第でございます、若しも昨年までの日本全國に於ける天然痘の少ないのは、能く種痘の行屆いた爲であると申しますれば、何故本年は行屆かぬのであるか、去年までは能く種痘が行屆いたのに、本年に限つて種痘が行屆かぬと云ふ理窟は無い譯であります、それ故に去年まで天然痘が少なかつたと云ふのは自然の結果であつて、多少人力が其中に無いと云ふことは言へませぬが、豫防の効力が甚だ少なく矢張り疱瘡の流行する時が來れば流行するので、昨年は僅か百人であるのに本年は最早何百と云ふ病人が出來た、斯うなると誠に心細い話で、種痘の如き最も容易い最も確實なる豫防法があるに拘らず、其種痘法の普及が不完全であると云ふことになると、外の事まで右のやうな次第であると思はれ、赤痢の豫防なり虎列

剌の豫防なり、ペストの豫防なり、其他の傳染病以外の設備に至ると、悉く右の如く不完全であると推定いたしますと、居つても立つても居られぬやうな心配の次第でございます。

若しも斯の如くに天然痘或は虎列剌が內地に流行して、さうして是が戰地に居る軍隊にまで波及いたしましたならば、それこそ容易ならぬ結果にならうと思ひます、實に新古未曾有の國難に當りまして少しても軍隊の勢力を添えなければならぬ我々人民が、傳染病の豫防を怠つた爲に、軍隊にまでも迷惑を及ぼし、遂に國を危くすると云ふ結果になりますれば、實に我々は自ら國を滅ぼす人民と言はなければならぬ、實に大切な時機でございます、それ故に平生と違ひまして戰時に於きましては特別に傳染病の豫防と云ふ事に皆さんは注意して戴きたいと私は熱心に御願ひ致す所でございます。

傳染病を豫防いたしますにはどうするかと云ふと、是は度々皆さんの御聽きになつて御承知の事でありまして、今更私が申上げるまでもございませぬが、現に御膝下の東京ですら甚だ歎はしい狀態になつて居る、それは此頃大分赤痢が府下に流行いたします、甚だしい流行ではございませぬが、諸所に赤痢患者がございます、所が兎角醫者に掛つて療治をすると云ふものが少ないのであります、尤も是は或は貧しい爲に醫者に掛ることが出來ないやうな人もありませう、けれども又妙な者で、醫者に診察して貰ふと屆けをされる、さうすると消毒の人が來たり交通遮斷をしたりしてうるさい、商賣の妨げにもなれば家の迷惑にもなる、誠にうるさいからして成るべく醫者に掛らないで賣藥で濟ませやうと云ふものが中にはあります、そこで警察官が戶口調査を致す爲め各戶に行きて調べます序に、其家に病人が有るか無いかを調べると、能くさう云ふ場合無屆の傳染病患者を見出すのであります、赤痢などに惱んで醫者にも掛らず、又豫防も致しませぬで其儘呻吟いたして居る病人を屢々見出します、斯う云ふのは甚だ危險

てありまして、非常な大流行の基となります、それてありますから何でも傳染病の豫防は一番早く病人のあることを人に告げ知らせまして、其病人は誠に不幸でありますが、其病人からして他にまで病毒を傳播しませぬで、一人なり二人なりで撲滅するやうな手段を施すのが傳染病の豫防に最も重要と致す所でございます、丁度火事と同じ事でありまして、非常な大火になると幾ら喞筒がありましても中々鎭火いたしませぬ、けれどもチョット盥に火が落ちた時分に水を直ぐ掛ければ、それで大火にも至りませぬで濟むやうなものでありますから、最早大流行を致しました時は迚も豫防することは實際出來ませぬ、何でも一人か二人か、三人か四人か、極く少數の病人の間に早く撲滅いたしませぬければ非常な事になりますからして、何でも怪しい病人が起りましたならば、先づ以て早く之を醫者に診察して貰つて、其筋へ届ける必要があれば届ける、斯う云ふ事に致しませぬければ誠に危險であります、現に私共なども能く傳染病に出會ひまして、中には立派な身分の人がどうか届をして貰ひたくないと云ふ請求をすることがございます、是は誠に困つた話で、傳染病の届けをすると病人に恨まれます、あの醫者が届けた爲に商賣が出來なくなる、消毒する爲に一日も二日も不潔な思ひをしなければならぬと云ふやうな、いろいろな小言を聞きます、けれどもそれは小言を言ふ方が甚だ間違つて居るのでありまして、第一には自分の爲であります、例へば自分の息子が病氣であつてそれが爲に消毒すると云ふことは、其家の者の爲に直接の必要である、家族の爲に必要ばかりでなく、あたり近所、大きく申しますれば東京市全體、尚ほ大きく申しますれば日本國全體にまでも影響するやうな大切な事でありますから、一日や二日三日商賣を休ませられた所が已むことを得ませぬから、甘んじて早く届をして相當の處置を受けなければならぬのが、德義上當然の事であります、それをば利害の立派に分る人が往々届出を嫌ふ、醫者に迫つて届出

を拒むと云ふやうな事が稀にありますが、誠に是は心得違ひの事と思ひますて、さう云ふ人に出會ひます度毎に、私は無遠慮に利害を說いて、私は私だけの考へ通りにいつもやつて居ります。

又中には家の下婢や下男が怪しい傳染病に罹つたと云ふ廉があると危ないから早くやつて仕舞へと言つて宿へ歸す、人力車へ乘せられなければ釣臺で歸す、自分の家で病氣になつては大變だからと云つて、夜中提灯も點けないで宿元へ歸すと云ふことが往々ある、誠に是は不德義な話、又實に危ない事でありまして、其病人を他へ持つて行けば詰り病毒を撒散らすのであります、斯う云ふ事は皆德義の問題でありまして、利害を考へました以上は決してさう云ふ事は出來ませぬ、ピン／＼達者の中にはコキ使つて、一朝病氣になると逐出す、それは已むを得ぬとした所が、世間公衆に對して非常な危險を與へる所の事をば敢てすると云ふは誠に耻づべき事であらうと思ひます。

それ故に傳染病の豫防と云ふのは、第一德義上の問題になつて居ります、一つは教育問題であります、德義と教育とを完ふ致しまして、さうして始めて利害の事も能く明かになる、明かになつた以上は他の者がさう云ふ事を勸めても、如何なる場合でも右のやうな事は爲すことが出來ない譯であります、況んや今日軍國多事の時に臨み擧國一致敵に向はなければならぬ時に際しまして是まであつたやうな實例の無いやうに私は希望いたすのでありますからして、斯う云ふ事は甚だ申上げにくい事でありますけれども、實際さう云ふ例が世の中にあることは確かでございますから、一言述べた次第でございます。

それで是は傳染病の豫防でございまして、其中の腸窒扶斯はどう致すとか、虎列刺はどう致すと云ふことは今日は述べぬ積りでございますが、尙ほ唯だ一言いたしたい事は腸窒扶斯や赤痢や虎列刺には豫防の注射が出來ると云ふことである、恰も種痘が天然痘を豫防するに効能がある如くに、是等の病氣に對

して効能があると云ふ事を頻りに唱へて居ります、現に一昨年虎列剌の流行つた時には、内務省ではさう云ふ考は無かつたが、地方では强制的にどうしてもやらなければならぬと云ふので、片ツ端から人を捉まへて虎列剌の豫防液を注射した例がある、即ち山口縣でやつたと云ふことを聞いたのであります、岡山縣でも岡山市にては之をやつたのである、所が古今未曾有の大流行で、岡山市だけでも千人以上の患者を出しました其當時岡山の棺桶屋が品切れになつたと云ふ、醫者が病家へ行かうとして外を歩いて居ると、おれの家へ來て呉れと云つて、途中で車から下ろされる、斯う云ふやうな大流行の際に當つても注射は効能が無かつた、此事は岡山の醫學專門學校長の菅醫學博士が精しく調査いたされて報告になりました、虎列剌や腸窒扶斯や赤痢に對して豫防注射があると云ふ事を世間では頻りに唱へて居りますが、併ながら是はまだ確に人身に對し効能があると云ふことは認められませぬ、けれども一昨年の如きは現に實行いたして居りましたから、世間では非常に之に重きを置きまして、種痘いたせば天然痘を防ぐと同じやうに、豫防注射をすれば此三つの惡疫を防ぐことが出來ると云つて安心すると非常な害になると思ひます、決して其やうに安心する程に効力のあるものでなく、まだ中々効力が有るか無いかすら人身に對しては分りませぬ、まだ研究中で、動物に對しては多少効力のあるのは分つて居るが、人身に對しては未だ分りませぬ、それ故に豫防注射と云ふことが世の中にあると云ふて、他の豫防を怠つては甚だ危險でありますから、是も一言附加へて置きます。

傳染病に引續いて衛生上の注意は何かと云ふと、飲食物の注意であります、是は平生始終我々の注意いたして居る所でありますが、併し戰時になると食品をば内地からして戰地へ持つて行かなければならぬ、我軍の進む所まで運ばなければならぬ、それで生の牛肉とか生の野菜物を送ると云ふことは嵩も餘

計であるし、又腐敗の虞もありますから、御承知の通り之を鑵詰に致して送ります、明治二十七八年日清事件の時は矢張り鑵詰を澤山拵へましたが、併ながら誠に不徳な奸商が出まして、中には鑵詰を粗惡に致して、僅か十日か十五日經つと直ぐに腐敗するやうな粗製の鑵詰を拵へまして、さうして戰地へ持つて行く、戰地へ持つて行つて蓋を開けて見ると、いつか肉は腐敗して居つた、又百目の肉を入れる所は八十目しか入れなかつたり、斯う云ふやうな粗製濫造を致して其間に利益を貪らうと云ふやうな者が日清事件の時にはございましたが、是は甚だ注意すべき事でありまして、幸に此頃ではまだ左樣の事はございませぬけれどもが、德義上我々人民は傳染病の豫防を致すと同時に、食品の供給に於ても注意しなければならぬと思ひます、それ〳〵其筋には監督者もありまするし、又取締もありますが、併し中々十分に監督も行屆きませぬから、自ら進んで斯の如き奸商の出ないやうに、又德義上出征軍人の食料は少しでも良くしてやらうと云ふ考を起して百目の肉を送らうと云ふ時は百二十目の肉を送り、半年保たせやうと思つたならば一年も保つものを拵へて然るべきでございます、陸軍省では此頃は陸軍省自身に鑵詰を拵へて居ります、併し多數の軍隊に供給いたすには迚もそれでは間に合ひませぬから、矢張り民間で製造したものを購入いたします、中には福神漬とか云ふ野菜物の鑵詰が澤山出來ます、斯う云ふものは特別に注意をして、日清事件の際の如く軍隊を困らせるとか云ふ如き事をして、自分の懷中を肥す爲に軍隊の迷惑は一向構はぬと云ふやうな事の無いやうに、互に相戒しめ互に相愼んで軍隊に供給するやうに致したいと思ひます。

先づ戰爭の衛生に付きまして、軍隊に對する我々の注意は、傳染病と食物の供給、此二つに付て十分の注意を有ち、德義上軍隊の健康を保護するやうに我々は熱心に之に當らなければならぬと思ひますから、今日此場合誠に詰らぬ知れ渡つた事を繰返すや

うてございますけれどもが、併し良い事は何遍繰返しても一向差支ないと考へますからして、一言述べまして皆さんの清聴を煩はした次第でございます。

家庭看護法（前號の續）

醫學博士　三宅　秀君

都會では人力車か駕籠か吊臺がまア宜いのでありますが、田舍ではどう云ふ工合にして遠方から病人を醫師の所へ運ぶかと云ふと、駄馬に乘せて參ります、農業に使役ひます馬に乘つて醫師の所へ診察を請ひに來ます、馬に乘れないやうな者になりますと矢張り今の吊臺のやうなものに致しまするが吊臺もないと云ふやうな所では長持へ乘せて參ります、是は好い工風であります、是も必要から迫られてさう云ふ工風が出來たので、至極好からうと思ひます、前に擔架のことを申しましたが、陸軍などでは戰場で負傷者の出來ました時分には蠶を飼ひます笊の上に病人を載せて運んだこともありますが、是も至極好い工夫であります、淺い笊の中へ莚でも敷いて其處へ負傷者を臥かして運びます、遠い處へ運ぶのには輕くて至極好い物を利用せられたと思ひます、又長持の中へ病人を入れて歩くなども一向差支ない譯であります、ソコで西洋では病人を運びますのに馬車で運ぶ、病人を乘せる爲に特に造つてある病人を病院などへ運搬致しまする所の輸送車と云ふ特別の馬車が設けてあるのであります、けれども其特別の馬車の無い時にはどうするかと云ふと、普通の馬車で寢臺の儘病人を運んで行くこともあるのです、此場合にはベットと云ひますけれども今迄普通用ゐて居りまする寢臺の必要はないので、四足の附いて居る所は必要がなくて中の蒲團だけあれば宜しいのでありますから臥床の代りになる低いバネの付いた框がありまして、其中へ病人の寢て起る蒲團だけを載せて、それと共に病人を普通の馬車に入れて運んで仕舞ふのであります、さうすると此の病人の寢て居り

ます蒲團の框と馬車との間にもう一つ彈條が張つてあります、それは鋼で拵へた彈條の入れてあるのもありますし、又護謨の球のやうなものも入れてあるのでございます、是は至極好い考案だと思ふのです、蒲團を載せる木の框の四隅の所へ木の碗の樣なものが付て居る其碗の中に護謨の球を入れてありますから其球がフワ〳〵して居る上に病人が寢て居るのでありますから此球に依つて餘程激動を豫防しますから病人の身體にギツリ〳〵と當るやうな苦みは與へないのであります、是は全く普通の馬車へ病人を積んで歩く時の道具であります。

病人或は負傷者を病院等へ運ぶ輸送車と云ふのは是は特別に出來て居ります、流行病などが激しくはやつて避病院へ陸續病人を送らなければならぬやうな場合になりますと一輛の馬車の中へ二人位宛は載せて運ばなければならぬ場合が幾らもあります、看病人が付きませぬならば一輛の車へ二人乘せて運ぶと云ふことは容易いのでありますけれども、大概さう云ふ病人になりますと激しい病人であるから、病院へ運ぶ間でも看病人が付添ふて居ります、詰り其車中に二人も病人が入れてあれば之に看病人が一人付いて居るのであります、其車中には途中で必要な藥劑でも便器のやうな物でも總て必要だけの道具が具へてあるのでありますから、病人を擔架へ載せまして擔ぎました儘車の中に載せてさうして目的の地まて運んで參るのです、是は戰時などに於きましては澤山病人を載せて運搬する事は大きな車が昔からあつたのでありますけれども、さう云ふものとは違ひまして、平日私宅に病人が出來た時分に其病人を病院にでも送りたいと云ふ場合には只今申しました輸送車を電話で病院へ申してやると直に運搬車を自宅まで引付けて參ります、それへ乘せて病人を目的地まで移すと云ふやうな便利があるのであります、是は傳染病のあります時ばかりではなくて途中で負傷者等の出來ました時分には極く必要なものでありますから餘程貴重いものである、此車があると病人又

は負傷者の身體のために大層利益があると云ふことを公衆に示すがために大日本私立衞生會で注文を致して一輛取寄せる積りになつて居りまするが、一輛の代價が五六百圓乃至千圓も致しますから今日まで決議はしてありますけれども未だ取寄せてございませぬ、其車の利益の一つを申しますると云ふと、途中で自用の馬車が轉覆つたとか、或は馬車と何かと衝突したと云ふやうな場合に、自用の馬車にも乘る位の貴紳の人が負傷などを致しました時分にまさかに之を吊臺に載せて病院へ運ぶと云ふことは不體裁でもありますし、又有合はせの戸板などに載せて毛布を敷いて其上にお寢かし申すと云ふことは貴顯のお方に對しては甚だ失禮なことでありますからして、何時高貴のお方が途中で不時の禍ひにお罹りなさるまいとも限りませぬから、是非其筋に於て斯う云ふ車は一輛なり二輛なりは具備なさつたら宜からうと私共は其筋へ隨分勸告申したこともあるのですけれども未だ何處にも其設けが無いやうでありますから、それで私立衞生會の方で會の費用を以て廣く其車の効用を知らしめるために取寄せやうではないかと云ふ決議を致したのであります、病人も普通の人力車に載せて病院まで運ぶと其間に餘程病氣が惡くなることがあります、負傷者でありまするど尚更一層酷くなります、負傷をして骨などが折れてグザ〳〵になつて居る場合に負傷者を物軟かに能く取扱ふことをしないで粗暴な扱ひをして、路傍の人などが其病人を下手に抱へて、さうして戸板か何かの上に移して運びますと云ふと、負傷した時は聊かの負傷で極く輕い負傷であつたものがそれが爲に却つて傷を受けない部分まで及ぼして、負傷に負傷を重ねるといふやうに輕い傷が却つて重傷になることがありますから、重傷になつた病人を病院へ擔込まれると醫師も一層困難をする唯醫師が困るばかりでなく病人は尚更苦痛を致しますのみならず隨分體裁の惡いものでありますから此法に依りたい、只むやみに體裁を飾ると云ふ意味ばかりでありませぬで種々病

人或は負傷者のためになることが多いのでありますから、此病人を運送する事は甚た必要なものでありますから、従來在來りの吊臺や駕籠ては今日では最早どうも我慢して居られないやうな有様てあります。

（未完）



寄書

田ウコギに就て（再び）

新潟縣小出病院醫學士　竹中成憲君

田ウコギが肺病に特効ありとの説の誤は既に先日の紙上を假りて之を論じたるが其の流行熱も其内に下降すべく思はるれば今又更に再言するの必要なきに似たりといへども類似草の學名に異動起りたりとて松村理學博士より申越されたると前稿に於て「ヤナギタウコギ」を西洋に於て結石病（結核にあらず）に用ゆる事（メルク會社インデックスに載せあり）を述べ置きたるの外更に「せんだん草」を西洋に於て呼吸器病に用ゆる事を其後發見したるを以て玆に再言する事とせり。

此頃讀書の序次ロンドン發行のセンチュリー字典を繙きしにビデンスの項に左の如く記す。

「ビデンス、ビピンナタ（譯者曰即せんだん草）俗に「イスパニアはり」「スペイン針」博士曰又俗「セイロン茶」の根及び實は俗に（西洋をいふ）通經藥（月經藥）及び急性支管枝加答兒の藥として用ゆ」云々

松村理學博士著植物名彙所載ビデンス（英語バイデンズ）屬左の如し。

（一）やなぎたうこぎ（ツエルヌア）
（二）ほうばのせんだんぐさ（バルウホフロリラ）
△（三）せんだんぐさ（ピローザー）
（四）たうこぎ（トリパルチタ）
△（五）しろばのせんだんぐさ（しろのせんだんくさ正し）（ワルリヒイ）

右の中(三)及び(五)は左の如く改正すべきものなりと申越されたり。

△(三)せんだんぐさ(ビピンナタ)
草木圖說十五卷六十丁圖

△(五)しろのせんだんぐさ(ビローザー)
草木圖說十五卷五十九丁圖

之に據てビピンナタの「せんだんぐさ」なる事を知るべし然れども田ウコギ信仰家は之を見て双手を舉ぐべきにあらず其理由左の如し。

一「やなぎたうこぎ」の成分は單寧、エーテル油及び植物粘液なることは緘せて獨逸メルク會社インデックスに在り
田ウコギの分析は上野藥學士に據てなされたれども未だ確定にあらず他にアルカロイドの在るかの如くいうものある由なれども言明するに到らず予は本品の上記「やなぎたうこぎ」と略同一品なる事を推定して差支なしと信ず　随て敢て有効分を期すべからず

一慶松藥學士は予に先ち然し予と關係なく左の如く言へり(藥事評論六月五日)
『次に彼のタウコギサウの成分に就ては上野學士の研究未だ豫報に過ぎずと雖も鹽基性物質或は配糖體の如きもの丶存在を認めざるもの丶如し吾曹亦素より植物の有効成分が斯の如き類に止まれりと斷ずるものに非らざるも而かも肺結核の患者に對して假りに偉効を奏するものありとせんには何等化學的興味ある成分の存在を度外視すること能はざるなり果して然らば吾曹はタウコギサウが頻死の患者を救ひたりとの說に信を措く能はざるもの理の當然に非らずや而るに常識なき新聞記者等喋々筆を揃えてこれを世上に傳へて世人を惑はする口一日より劇し吾曹の憂ふる所亦此にあり』云々

一「せんだんぐさ」(ビピンナタ)を上記の如く呼吸器病に西俗用ゆるも急性氣管支加答兒に應用しあり急性なれば先づ「感冒」位のものなりせめて

○○慢性とてもいふならば面白きも不幸にして然らず加之出典なる「センチユリー」にも（其五四七頁）「ユースレス、ヴヰーズ」又「イル、フアウンデツド、レピユテーション」評言すれば「無用の雜草」又「根據を誤りたる名聲」と明記しあり

且「せんだんぐさ」は乾地（本邦到る所）に生じ「田うこぎ」は濕地に生ず成分多少の差あるべし

因に記す

「せんだんぐさ」は元來米國産にして歐州南部及び亞細亞に輸入されたりとの學説なりと松村博士附記せられたり

終に臨み慶松藥學士の同君の文の所在を予に示されたると松村理學博士の取調を予に通知せられたるとの厚意を茲に謝し併せて此の如く急性に蔓延したる民間の迷信を打破するは學者本分の領内なる事を思ふて斯道者の之に多少の注意を拂はむ事を希望す儕にして之を使用し其効なきを予に報ぜられたるの人八月一日までに靜岡縣より一人あり。



婦人と小供

醫學士　唐澤光德

●離乳の事

暑さも漸く薄らいで、肌さむき秋風が吹きそめてまゐりました、叢の虫の清くしげくなき出てますするのも、一つは時候のいゝせいでござりましようか、夏の間に衰へかけた體力も何となく自ら恢復してまゐつた様な氣が致します。

何もこの頃の期節にのみ適してゐると申す譯ではありませぬが、暑中丈は少くとも見合せられたいと云ふてをきました乳ばなれの事を申し上げましよう。

離乳の事は實際にはなか〳〵行いにくい事で、今迄飮ませてをいた乳をやめさせるのでござりますから、習慣もあり、母親の愛情（即今迄小供に乳をの

ませてをいたものが急に乳をやめるのですから何となく物足らぬ心地が致されましようし）からもやめにくいし、また非常に手がかゝる爲につい〳〵延ばし勝ちになる物でござります、從つてこの離乳の時期が各國異がいまして、其長短は其國の文化の程度に一致比例する樣でござります、即開明の國では其時期も早く不開化の國程其日數の延びるのは無理もないのでござります。

各國の哺乳時期は Das Weiel に委しく載つてをりまするが、内に日本なども哺乳の時期を三年と記してござりますが、昔から我國で行はれてをる喰初の式なども生後二百二十日にするのでしたが、之は多分只の儀式丈で實際は尚永い間母の乳をのませてをいたのでござりましよう。

當時の小兒科醫の說によりますと乳離れをする時期の最よろしいのは九ケ月位から拾一二ケ月迄の間をいゝと致してをります、勿論其兒の體格の好惡、發育の如何によりまして相異はありますが、健全の者であつたらまづ拾一二ケ月頃に乳をやめさせて他の食物に漸くかへて行くのがいゝやうでござります。

其方法に就きましては、書籍には種々の事柄方法が書いてござりまするが、御素人方に御話しするのであるからあまり多くはいはないで、私共が普通やつてゐる方法を申し上げましよう。

まづ小兒が拾一ケ月乃至拾二ケ月頃になつて、發育もよく身體に異常がない時には、今迄一日三時間每にのんでをつた乳、云ひ換ゆれば一日八回の乳の一度丈をやめさせて、晝食丈を「おもゆ」の極くうすいのに致します、（おもゆの分量は一回に一合位）かくの如く一日一回宛與る事が二三日たつても、小兒は別段に異常がなく、大便も不消化にならなかつたら、こん度はまた一回「をもゆ」をまして一日に二回と致します、そう云ふ風にして一日三四回もをもゆを飲ませても差つかへのないようになつてから、をもゆの濃さをまして、殆んどおかゆに近いものと致し、其内に鷄卵をまぜて見ます、この鷄卵をまぜますに

も、初めの日は鷄卵中卵黄（きみ）の半分丈入れてよく煮たのを與へ漸次にきみ全體を與へる樣に致し、卵白（しろみ）の方は卵黄より消化が惡いから、少し後になつてから與へるのがよろしうございます。

以上は母乳をやめて他の食事に移す大體の方法で、かいつまんで申せば此方法の要點は徐々と他の食物に轉ぜしむるのでございます、何度も申す通り小兒の腸胃は非常に弱い病氣にかゝりやすいのでござりますから、決して急卒な食物の變化などは致されません、また此事を暑中に行はせないで秋冷の氣候迄延ばしてをくのも、暑中には小兒が直きに下痢を惹起すからでござります。

離乳後の食物　今御話した丈では離乳を行ふある時期には、小兒の食物はをもゆと鷄卵丈になつてくる譯でござりますから、其副食物として不足を補ふものがなくてはこまります、其副食物の第一は牛乳で一日二三合も與へられたらよろしうござりましよう、之は今迄牛乳のみで育てられてゐた小兒には至極容易な事ですが、もし初めから母乳ばかりで育てられた小兒にはどうしてものまないと云ふ一寸困難の事がござりますが、これは養育者が忍耐してうまくやれば、牛乳をのまないと云ふ小兒は殆んどないと云つてよろしうござります。

此際母乳を一日二三回宛小兒に副食物として尚一年間も哺ませる事の可否に就きましては、一寸考へれば折角出るものではあるし、また今迄もそれで發育させきたのであるから惜しい樣な考が致します、しかし、之は斷然中止せられた方がいゝ、一は其母乳自己が漸々うすくなつて來て榮養に適しなくなるのと、一は母乳を全く廢す期が非常に晩くなつて三四歳迄も母乳にすがらなければ、小兒が承知しなくなると云ふ弊害があります。

だが玆に一の例外を揭げてをきます、以上申しました、離乳の方法は正當であるには相異ないが、もし山間避地に住居して居つて牛乳を求める事が出來ないとか、または非常に經濟が不如意の家庭で鷄卵を

求めるのすら骨の折れる程の家庭にも應用する事が出來るかと云ふ問ひがござります、實際後者の場合のような時には母乳を全廢して、牛乳、肉汁に代へろと申した處で、とても實行できませぬから、これ等のものには尙副食物として、今一年程母乳を一日二三回のませる方がよろしいと考へます、其他この時代に小兒に與へます副食物は肉汁、輕い魚（かれいの小さきものなど）等で、外國の書籍には種々ござりますが、我國の如く料理法の發達して居らない所では、あまり見當りませぬ、菓子類には、かる燒が一番いゝ次ぎは風船あられ、ウヱーファー、衛生ボーロ、園の露などで「ビスケット」は一年半乃至二年以上の小兒でなければ決して與へられない事を希望致します、これ等の菓子類を與へるのにも、初めの日は一二個に止めておいて、漸次に其數をましてゆかなければならない、一般に今回記しました事に關しては漸を以て進むと云ふのが、其第一義なのでござります。

（此項了）

大家談片

●癌腫に就て

萬朝報は去月以降癌腫は死病なるかと云へる題目のもとに諸大家の說を敲きて同紙上に連載せり極めて有益なるものなれば其要領を轉載せんに（中略）秦將學士の說に癌腫の病原は未だ判明せざれど近來一種の細胞の中に寄生蟲があつて起るものだと云ふ說を立てたものもあるが今日にては未だ確かでない遺傳又は傳染すとの說もあれどこれも確かではない分り安く言へば性質の悪しき瘤の如きものにて其發生の原因として尤も勢力ある說は、一は凡て刺戟を與ふれば發生すといふにありて煙管を咬へる人に脣の癌腫發生し易く齲齒のある人に舌癌多く乳を多く子に吸はれた婦人に乳癌多し何れも皆其部分を激しく刺戟するより發生するものにて西洋には烟突掃除人の煤烟の爲め陰囊を刺戟する爲め陰囊癌なるものさ

へありといふ他の一説には細胞組織が中へまくれ込むより發生すといへど未だ何れが是なるを知らずといふ。

▲癌腫の年齢　尤も多くの患者は四十歳より五十歳にて五十歳より六十歳の間又之に次ぐ紅葉山人の如きは三十八歳なりしが稀れには二十歳未滿の患者さへ見るに至れりと。

▲癌腫經過　早きは一二ヶ月にて仆れ遲きものは五年十年を要すと雖も尤も多きは一二年にて倒るゝものなり併し大抵其初季は胃癌なることと分明せず胃癌なることの分りたる頃には早や手後れとなれるが多し乳癌又は舌癌の如き外部に顯はれ居るものは大抵の醫者にも分れども内部の癌は到底藪醫者には分らぬこととなりされども立派な醫者なれば發見し得るものなれば手遲れさへせねば治療することを得べし殊に子宮癌の如きは尤も秘密の場所とて大抵は手遲れとなるが多し。

▲如何にして治癒すべきか　今日の處では藥用法では迚も十分なる効果あるべしとも思はれず時に特効ありと云へる藥あるも僅かに一時其疼痛を止むる位に過ぎず玆に於てか尤も確かなる治療法はたゞ一の外科手術あるのみ今日は防腐的手術が完全したれば腹部の切開するも左まで危險のこととなし而して惡しき處を取り去りて後縫ひ合せ又は胃を取り去り腸と食道とを縫ひつくるも容易にして腸なども腫物を切り取り上下の端を縫ひ合せることを得かくして手術其効を奏せば手術後二週間位にして通常の食物をとりそろ〳〵歩行することを得べしされば外科的手術の及ばざる所なき今日世人は姑息の療法を止め早く手術を受け手遲れなき樣にすること尤も緊要なりされども病勢の非常に進み身體大に衰弱したるものは迚も外科的治療をかふべき道なしとは東京醫科大學派を代表する近藤博士が助手泰醫學士所説の拔萃なり。

▲近來癌腫病は醫學の進歩と共に發見さるゝ爲にや此病に罹るものの頻々にして朝野の名士之に罹るもの

多し去る三十五年度に於て東京市に於ける癌腫の爲め死亡せし數は左の如しと。

	男	女	計
胃癌	三〇七人	二二八人	五三五人
食道癌	六六	一四	八〇
肝臓癌	五二	三二	八四
膽嚢癌	二	九	一一
腸癌	三四	二三	五七
喉頭癌	一五	五	二〇
皮癌	〇	二	二
舌癌	四	四	八
乳癌	〇	一六	一六
子宮癌	〇	一二一	一二一
其他の癌	七三	四四	一一七

之を合すれば一千〇五十人にして之を前年度に比すれば實に四十餘人を增加し年々激增の模樣あり。

▲癌腫の發生する場所　尤も多きは乳、子宮、胃などにて舌、口唇、直腸、陰莖之に次ぎ其他内臓（肺臓、心臓、胃、腸、肝臓、脾臓、膀胱）より表皮到る處に發生し一口に言へば身體中發生せざる處なく外部に出來しものは容易なるも内臓に移りて身體全體に擴がる續發轉移の爲めに病勢は限りなく進みて其宿れる人の身體を食ひ盡すに非れば止まざるなり其外此病の恐るべきは如何に小さき腫物にても非常に人體を衰弱せしめ殊に胃癌、食道癌、腸癌、及び呼吸器系統なる口頭癌などに至れば衰弱更に甚しきものなり。

▲又栗本醫學博士の談に曰く　癌腫の恐るべきは醫學の淵叢獨逸に於ても堅く信ぜらるゝ所なり然れば同國にても近頃に至りフォン、ライデン及びキルミルネルの諸氏相集まり癌腫調査會と云ふを興し專ら其原因、治療法等を研究し初めたり、是は思ふに日本に於ても尤も必要なる事なるべし、過日『萬朝報』に記されしが此病の爲めに生命を奪はれし名士は實に多し一寸わが記憶に存ぜる限りを擧げても、

西鄕從道侯（胃癌）古河市兵衞（同）第七師團長永山武四郎（食道癌）
京都理科大學教授織田顯次郎（胃癌）片岡健吉（？）

などあり近くは尾崎紅葉、山口大將、市川左團次、渡邊又兵衞など續々此病の爲めに仆さるゝを見ても

此病ひの範圍の如何に擴まりし歟を知るに足らん、但日本にては調査會のなき爲め其程度を知るを得ざるは如何にも遺憾の至りといふべし扨

▲癌腫の病源　については目下の處尙不明なりといふの外無し或人は

　其病源を黴菌に歸せり

即ち癌腫は紛狀黴菌が原因となり發生すといふにあり此黴菌は胃にある黴菌にして總て醱酵する時に發生するものなり、醱酵とは砂糖が變じてアルコールが出來る如き作用をいふにて彼の麥酒を作るに酒のモヤシ即ち酵母を入るれば醱酵して初めて麥酒を得、此酵母の酒に、於けるは即ち人躰に於ける醱酵なり又或人は

　其病源をプロトツオンに歸せり

プロトツオンとは即ち一種の下等動物にして之が原因となりて癌腫を惹起すといふにあり而して近來醫學界の大勢は此プロトツオンに傾きつゝあるが如し前に提げたるライデン氏の如きは實に有力なるプロトツオン主張者なり、知らず下等動物なるプロトツオンを平假名に書直せば如何なものぞ。

▲プロトツオンとは何ぞ　前にも云へる如く一種の下等動物にして一名フルピーゲルアウゲンと云ひ◉の如き形狀にてさながら鳥の目に似たるより之を鳥の目とも稱せられ人躰の組織細胞中に生活し居る者なり但し此說とても確定したるには非ざれど黴菌說に比較して大に勢力多し、扨若此說果して正確ならば此下等動物は傳染する物か否か是當初の硏究問題なり獨逸にても未だ硏究中にて一定の說なれど動物躰の者とすれば傳染せずとは云ひ難し

▲現に夫婦間に　相踵て癌腫の起りし事稀れにはあり母が乳癌なりし爲め其子も癌腫に罹りし事あり妻が子宮癌にて死せし後夫も生殖器の癌腫にかゝりし事あり又獨逸の海水浴場にあるノルデルネル島の如きは一町内に驚くべき程多人數の同病者凝りて住ひ居れり之に由りて見れば癌腫は傳染性の者ならずとは云ふべからず、其傳染と否とに拘らず患者の年々多

くなり行くは疑ふべからず現に

▲獨逸伯林にては　千八百八十五(廿四年前)年には癌腫及び其他の腫瘍にて死亡せる者九百十人なりしが其後十年經たる千八百九十五年には同病にて死亡したる者千六百十八人に增加したり貴紙によつて見れば日本にても順次增加し行く模樣あり恐るべき事なり而して此病には

▲遺傳ありや否や　此も癌腫研究者が未知數なり然れど今日迄の研究に依れば遺傳性なりと考へらるゝ事あり其一例としては

　百四十七人此が罹りたる同一臟器の癌にて其子の仆れたる者六十一人あり

又百五十九人の父が癌腫に罹りしに其中八十六人の子また癌腫の爲めに仆れたる實例あり之を以て考ふれば癌腫も一種の遺傳病の如くなれど單に遺傳系なるか、將た傳染病なるか、それとも兩樣を兼ねたる病質かは分明ならず扨此病は如何にして起るが多きぞ先其平生の

▲嗜好品が本病發生の誘因　となるは明かなり例へばアルコール、煙草等は最も害をなし易く梅毒、外傷等も亦誘因の一にして婦人にては流產の後に子宮癌を起す事多し、予(粟本博士)の考にては

　日本人は茶の强きを好むも一の誘因たるが如し現に紅葉山人は甚だしく濃き茶を好める一人たりしは世人の知れるが如し。

▲癌腫は男女何れに多きか　是れも尙研究中なれど女子の方多きが如し、其は女子には乳癌生殖器癌など男子に絕無若くは稀有なる癌腫ある故なり然れど胃癌、腸癌、肝臟癌などは多く男子の方に來るを見る之れ恐らくは

　男子が暴食暴飮の結果胃腸を損じ癌腫を惹起すもの多きに依るならん

扨男女おしなべて身體中

▲癌腫の尤も發生し易き個所　はといふに第一は胃及び肝臟にして次は子宮次は肝臟丈に來る癌次は腸及び直腸癌、其次は乳癌、次は食道癌なり此食道

癌も男子の方に多けれど割合に男子に少き下腹部の癌は婦人に多し、其中に就いて胃癌は殊に多く近來頻々として仆るゝ人多き故茲に其症狀を記して世の人々が普通の胃病と識別するを得る栞となすべし

▲胃癌の經過　は永きは二年三年に及ぶもあり極めて徐々に發生する者故素人の心づかずして時を經過するは然る事なり但し胃癌は其初期といへども普通の胃病以上に貧血衰弱を來し身躰の瘦せ方甚だし

其上食慾は概して進まず胃の一部に壓痛あり是が段々增進すれば酸敗、嘔吐を起し又其吐物の多くはコーヒーの如き液躰にて稀に鮮血を混ずる事あり然れど中には吐かぬ人も少なからず故に吐かぬとて安心はならず斯て時を經る程に

胃部の心下部に硬結物が觸れる樣になる事あらば最早胃癌たるに疑ひなし此硬結物次第に大きうなり行き壓へれば痛みを增し後には肝臟の方に附着し終に肝臟胃癌を發生するに至る事あり但し同じ胃癌にても

最後迄硬結の出來ぬ事もあり

胃の幽門部に發生したる癌腫は外より壓へ見るも手に觸れざる事あれば硬結の有無を以て胃癌と否とを判ずるは早計なり、然れば用心深き人は普通の胃病の割合ならず

貧血、羸瘦、脫力等の徵候あらば早速專門醫師の診斷を乞ふが一番確かなるべし、胃癌の序に他の二三の癌腫の徵候を記さんに

▲食道癌　は食物を嚥下む時に故障あらば：即ち硬き物を飲む時通りの惡しき事あらば其徵候と知るべし

▲腸癌は　胃の或場合と等しく腸中に硬結物を發見すべし

扨此恐るべき

病ひは如何にして治療さるべき歟

其初期にありては外科的切除の方法あり獨逸の外科大家ミクリタッツ氏は殊に此治療法に巧にして多くの

患者を治療したり日本にても隨分胃癌の切除を行ひたる由なれど其成績は未だ十分ならず稀には効を奏するもあれど病毒再發して爲めに仆るゝ者多し、近來獨逸にてはレントゲン氏のⅩ光線療法あれど之も皮膚に出でたる者に止まり內部のには十分なる効力なし歟

▲藥物的治療　としては未だ十分に信賴すべき藥劑なしたゞ予が好き藥なりと信ずるは白屈菜エキス、硫酸セルドニン（這は白屈菜の主成分を取し者にて白屈菜と製方異るのみ）及びアダム、キーウイッチ氏のカンクロイン等にて這は孰れも胃癌に特効ありとて歐羅巴にても多く用ひられ居れり日本にても予は目下白屈菜、及び硫酸セルドニンを實驗中なるが此二劑を以て果して癌腫を全治せしめ得べきや否やは短日月の經驗にては斷言するを得ず但此二劑は少くとも痛を癒し嘔吐を止むる事だけは予が是を紅葉山人、市川左團次等に施し實驗する所なり、要するに癌腫に對する藥物療法は實驗中なりといふに過ぎず切開術も未だ十分なる奏効なしとせば此病にかゝりし者は甚だ心細しと云はざる可からず然れども

其初期に於て治療せば內外科共に奏効あるは確なれば

少しにても癌腫らしき傾向ありとの疑ひある人々は專門醫について十分なる診斷を乞ふを要す世間に尤も多き胃癌の如きは前に述べたる徵候によりて注意せば殆んど雨ふらざるに命の窓を綢繆するに庶幾からん。

以上は栗本醫學博士の所說なり、添醫學士の共に歸着する所は初期治療說なり、世人は近來此恐るべき病ひの勢ひに鑑みて過日來連載したる此記事を輕視せられざりしなるべきを信ぜんと欲す。（完）

（萬朝報拔萃）

●人體の害蟲

此題目は理學博士佐々木忠次郎氏の日本新聞紙上

に連載されたるものですが其内で蚊の事は追々必要もなくなりますが虱南京蟲の事は今尚戰地にある兵士たちの苦しまるゝ處なれば言文一致に書き直して抜萃しましやう。

虱は其擧動が大膽で泰然として山の如しといふ觀がある此虱には二種あッて身體に寄生するものと頭に寄生するものとあります。

其からだの様子はヌキとしまして雌虱には大抵一疋て七十ヶの卵を産むといふことです其卵子は直ぐに孵化りまして復親虱となりて蕃殖しますから暫くの間に非常にふへて吾人を惱ますことが烈しくなります衣虱は身體にのみ寄生するもので毛髪には寄生することがありませぬ此虱は不潔な人の衣服の裏側に棲んで居りまして人の血液を吸ひます其跡は烈しく掻かねばなか〱治りません其烈しく掻いた跡は自然に熱氣を覺へて冬などであれば着物一枚位ぬいだとて別に寒氣を覺えないと云ふ話ですさすれば貧乏人などが衣虱を體に飼ッて置くのはまんざら無益のことではないでしやう?

頭虱は衣虱より小形で本邦のは大抵黄褐色で黒奴のは黒く歐洲人のは灰色です蓋し之は皮膚頭髪の色に伴ふて變色するのでしやう一疋の雌虱は大抵五十ヶの卵子を産む其卵子は常に頭髪の根元に付着し六日で孵化し又成熟して卵子を産む迄には都合十八日かかるそうですコレハ凡に老若男女の區別なく頭髪の不潔な者には多く蕃殖して其頭髪の間をくゞり〱走ッて居りますから之を捕へるには容易でないのです。

驅除法　之を驅除するには髪を洗ふことが第一であつて次て細い歯の櫛で丁寧に梳り捕へることが肝要で又水銀軟膏其他揮發油の類を毛髪の根元に塗り付けるのもよく又蚤とり粉を其部へ磨り入れるのも著るしく驅蟲の効能があるそうです。

南京蟲

此蟲は出征軍人の常に口にする處ですが南京蟲一名トコ蟲と稱へ歐米諸國を初め支那朝鮮等に多く棲息

し夜間出て丶人の血液を吸ふ惡蟲です此形は楕圓な平たい蟲であッて長さは一分五厘位で淡赤褐で黃赤色の毛がありまず毎回產む卵の數は大約五十粒許り一週乃至十日て孵化し其後七十日を經て成熟した南京蟲となり又產卵するもので此蟲は屋內に棲むものて屋外には棲みませぬ晝は薄暗い處にかくれて夜になるとのこ〳〵這ひ出て丶首筋だの手足の先きなどの蒲團から外に出た所を襲ふて血液を吸ふのです。

南京蟲は光を忌む　此蟲は非常に光りを忌むものと見へて夜分でも火を點じて置けば決して襲來する恐はないが若しも火を消せば忽ち襲來す此時急に火を點ずれば南京蟲は全速力で逃げ走るそうです若し指頭て之を壓し潰したときは惡臭實に鼻持ちのならぬものなり南京蟲に螫されたときは患部は團子の樣に腫れ上り烈しく一週間痒ゆ味を覺へ強く之を搔きむしれば痛んで來る本邦の家屋は概して淸潔で空氣の流通がよいから南京蟲などは發生せぬが外國の建物は兎角薄暗いのが多く特に安泊りなどには隨分蕃殖するそうですから立派な紳士が步いて居ッても其頸筋や手頸などに大きな腫物ができ居れば昨夜は安泊りを取ッたことが分かる云々。

衛生雜話



醫學士　石原喜久太郎

●夏の獲物は如何

夏の獲物とばかりではわかりませぬ事ですが、私は、皆さまの內で、此夏衛生上何か利益となるべきことを企てられまして、そして、どんな獲物が有りましたかを質問し度いのです、殊に、熱さの間に、或は山間の凉しき土地に轉地致されまして、身體の爲めに如何なる成績を得られたのであるか、同時に、衛生上に關係のある、どんなことを觀察し、注意せられたか、或は又、他方では、海濱地方に轉地せられ、

海水浴をなして、そして、如何なる成績を得られたか、又同時に、衛生上に關係ある何事かを觀察し、注意せられたりしかを伺ひ度ひのであります、例令、皆さまに於て、あまり面白くないことゝ考えらるゝにしても、今日、所謂轉地療養場所に就きての觀察事項は、吾々に取りて、大に參考となる事であります、なぜと云ふて

●日本の轉地療養所に關する凡ての取調べは、未だ甚だ不充分であッて、一寸、斯ふ云ふ身體の人は、何處の土地に往ッた方がよろしい、此時候には、何處にやッた方がよい、など云ふ標準は、未だ立ッて居ないのであります、醫者の方の調べが未だ及んで居ない點が多々あるのであります、夫故に、衛生家や、治療家は、頻りに轉地所の事に就き注意を致してゐる次第であります、私が一寸考ふる所で、例を

●海水に取ッて申しますれば、先づ、茲に或る轉地所として有名なる海濱地ありとし給へよ、夏季には此處に澤山の婦人方や、お小供達が、健康を謀る爲めに赴かれ、海水浴をなされる、然るに、其の土地の衛生上の調べが不十分であり、即ち、其内の一例を擧ぐれば、

●海水の温度が何度であることやらも少もわからず、吾も人も唯何氣なく水浴をしてゐると云ふ樣な次第で、若し夫が丈夫な人ばかりならばよろしいけれども病後であるとか、弱い人であるとかであれば、海水浴を爲すに就き海水の温度は重大なる影響を及ぼすべきものであるから、斯樣な人には初めには、海水温度は何度から乃至何度迄の間でなければ、水浴をさしてはいけない、何度以下の日は、休止すると云ふ、一定の標準が必要である、されば、海水温度の調査も必要がある、是は唯一例に過ぎぬですが、其他まだ／＼調べねばならぬ必要の箇條が少からぬ事と信じます、山間の地方とても同樣であります、斯樣な事は、醫者ばか

りでなく、轉地する人々が、皆心がけて置いてよろしい事と存じます海水浴の事に就ては、時候遅れて、今年は最早詳述は致しませぬけれども、私も注意してゐる事がありますから、調べが出來たれば改めてお話致す機會があらうと存じます、一寸序に唯一ツ申上げますのは、

●海濱の砂の温度

是は、此夏私が一寸やッて見たのですが、熱い日で、海水浴場の濱の細沙が熱してゐて、跣足では熱くて殆んど歩るけない位、小兒などにはとても耐えられぬ位の度でありました、寒暖計を沙に埋めて測ッて攝氏の五十二三度位(華氏の百二十五六度)ありました、(併し、何日でも、何處でも同じではないのです)人が水浴より上ッて來て、沙浴と申して斯樣な沙を腹や背中にふりかけて暖まるのはドウデスカ、之も一定の標準無しにやッて來てゐるのです、斯樣な點も、皆な注意せねばならぬことと存じます。

●冷拭法の初め時

之は此夏海水浴を致されました方には、必ず續けて行はるゝ樣、冀望するのです、又今迄之を行はなかッた方でも、遅くとも今頃から初められまして、此冬の寒さに對し皮膚を丈夫にし、身體の抵抗力を增進し、寒冒(諸病の基)にかゝらぬ用心肝要なり、本誌をお讀みの方は必ず御承知である通り、毎朝顔を洗ふ時に、水で手拭を絞り、全身を拭きこすり、あとを乾きたる手拭(西洋手拭をよしとす)にて更に拭きこするのであります、御婦人、小兒には誠に行ひ易き一の養生法であります。

●石鹸一口話

近頃獨逸の醫學雜誌に石鹸の消毒力に就きて研究したる事柄を載せてゐた、其内コンラーディと云ふ人の爲した實驗は是迄のと趣が異ッてゐました、石鹸は大抵消毒力を有ッてゐるが、其の基く所は石鹸に含まれてゐる所の遊離の亞爾加里だの脂肪酸だのでは無くして、却て石鹸中の香氣を發する物質が消

毒力を有ッてゐるのであると云ふ成績になッて居ります珍らしい説であるから一寸御參考迄に、

●牛乳中に混じたる塵埃を見出す簡便なる一法

是は吾が衞生學教室なる横手學士が曩頃獨逸のキュルップルヒ大學の衞生學教室から持ち歸えられたる標本の一種の御話です、此夏文部省の家事講習科のお方が三宅先生に連れられて教室へ參觀にお出で被下いました節に、私が説明致しまして、皆さんが學校に御歸りの後は、斯様にして牛乳の一試驗法を行はれて、生徒方や、家庭の方々迄にも能く説明ある様に願ッて置きましたことで、本會員の一部の方は巳に御承知の筈であります。

牛乳を搾り取る時には、餘程注意して淸潔を務めないと種々不潔な物が混入致します、警察の檢査が八釜敷き所では注意も行き屆きましよふが、さもなき所では間々塵埃が混じてゐるのは珍らしくない事でしよふ、塵埃が混じてゐるよふな牛乳はよろしくないので、塵埃は不潔の標準となります。

先づ濾過紙を當り前に、液體を濾すよふに折ッて、漏斗に挿入し、之で一定量(一合なり二合なりの)牛乳を濾すのです、塵埃を含んでゐれば、之が紙の上面に殘るのですから、それが、ドノ位あるか、すぐに見えます、其處で、直に紙を延べ、塵埃の面を上に向け、其上から丁度濾紙の直徑の長さ位ある正四角形の硝子板を蔽ふて其紙をよく附着せしむるのです、斯様に致して置けば、何時でも、易しく、こんなに塵埃を混じてゐる牛乳があるかと云ふことを、よく、わかるよふに説き示し得るので學校用の標本としては最も適當と存じます。





質疑欄

●●●●質問注意　質問中診察せざれば應答し難きものは一切解答せず又答解に遲速あるは登載順に都合ある爲めと御承知を乞ふ●質問は端書にても封書にてもよろしけれど單に質問のみをわかりよく認むる事●質問に姓名を出すことを好まざる方は匿名にても差支なきも事務所へは姓名御通知の事●本號の雜誌に登載するろ分は凡前月十五日迄に申込まれしものとす

質問者　岐阜　一會員

問　本年四月生れの女子俗にオンドリと申す頭の少しもへこみ居候處無之診察をうけ候處小頭兒とか申し成長するにしたがひ腦の發育不充分の爲め痴呆となるやもはかられずとの事不治の病に候や只今の内に何とか能き治療法御座なく候や御教示願上候。

答解者　小兒科一醫學士

答　御問ひ合せの御小兒はもし實際頭蓋が小なるならば小頭症に相なるやも計られず小頭症の小兒は往々見受くる所にして如此き小兒には所謂オンドリ（多分學名の顖門に候はん）の閉づること早きものなりされど本年四月生れの御小兒にてはかくの如き診斷をつくることは至難のことです充分の御希望を以て御養生遊ばさるゝ方よろしかるべし尚當時の治療法などは營養をよろしくする外皆無と存じ候。

質問者　日本橋　みね子

問　私事幼少よりこしけつよく如何せばなをりますか療法伺ひ升。

答　只こしけとばかりでは症狀がよく分りませんが子宮淋疾の事を普通こしけと申しますコレハ子宮の内膜に淋毒をうけ其排泄物が濃汁のやうで且多量となるもので此等の病氣は婦人科專門の醫師に就て早く治療せられんことを御勸め致します御質問の意味は所謂腰など痛む寸白の如きものにやソレとても又子宮病の一種なれば姑息の療法をなさらずに充分治療して根治せらるゝが後の憂ひがありませぬ。

尚兩足毛穴立ち非常にさら〳〵云は苛里石鹼ても

御用ゐになつて御覧なさい然らされば内科専門の醫に診察を受けらるゝ必要があります。

質問者　常陸の一會員

問　私事「センシ」とか申す病氣にて首の廻りぐり〱が出來大學病院にて二度まで切開致し候得共又跡へ出來困り居候何か克き豫防法あれば御教授下され度候此程の新聞に切開せずに全癒致すとの廣告相見へ候へども藥にて全快致せし人有之候や承り度候。

答　腺腫ですか之は身體の虚弱な人に出來易いのです豫防法としては是ぞと云ふ確實なものはなけれども全身の營養を盛にするをよしとすそれには日常衛生に注意し滋養なる消化よき食物を取る等ですが次に切開せずになほす事は實際あり併し之はドンナ腺腫も皆そふであるとは限らぬ其人の身體の性質によることなり故に良き外科醫に診て貰はねば切開せずしてなほるや否や判斷はつきません。

問　三十七歳の男始め腸胃加答兒に罹り快癒に赴きしも何故にや常に青色便に候へども身體には大害はなきものにや今より十五六年前痔疾を患ひたることあり時々出血もあり又腸中に於ける瓦斯の發生多き爲めか噯及び放屁頻發食後胃部を壓するとゴボ〱音響をなす他に氣分惡しきなし右は胃の擴張に候や治療法攝生法御高教願上存候

答　質問書に記るしあるだけで胃擴張なりとの判定をなすには少々六ケしゝ乍併胃擴張らしき處あり、胃擴張ならば溜飲し易し、故に可成消化し易くして容量の少き食物を攝收し、胃をして可成休ましむべし、液體も多量には用ゐぬがよし、胃の洗滌法もよし、胃部の摩擦もよい、おくびが出る、又放屁が多いとの事、おくびに就ては胃液を檢査する必要あり、しかし通例重曹水を用ふ、放屁の多いのは醱酵の爲めならん之も胃が惡いから來たのならんか、青便ありとの事なるが、青いと云つても程度あり、それを精しく記さねば、よくわかりかねる、又生理的には

青便はなし、故にやはり醱酵の爲めなるべし、胃をよくすればこれも追々にはなほるかと思はれる、しかし、一度内科の良醫の診察を受けられ度し。

質問者　下谷一會員

問　秋期清潔は如何なる程度に候や伺上候

答　近頃赤痢腸窒扶斯コレラなど豫防の爲め去月末警視總監の布達により知らるべし即ち

第一　宅地及び家屋の内外は勿論必要と認めたるときは物置、倉庫等を掃除すること

第二　疊、建具、寢具、什器等は之を取出し日光に曝し必要と認るときは消毒すること

第三　床下、便所、芥溜、下水及び吸込溜等を掃除し必要と認めたるときは消毒すること、糞池及び周圍は生石灰末又は石灰乳を以て消毒すること

床下にして濕潤せるものは石灰、土砂、木炭又は石炭殼を敷込むこと

第四　井戸は浚渫し井戸側、井戸流、臺所流、水道栓等の破損せるものは修繕を加ふること

第五　前各項の施行に因り生じたる塵芥は燒却すること

第六　前各項の外警察官吏又は當該吏員に於て必要ありと認めたる場所及び物件に對し清潔方法及び消毒方法を施行すること

質問者　東京一會員

問　食後に菓實を食するは衛生上よろしと聞き居れども時季により自由に得ること出來ぬ場合は罐詰の菓實にてもさし支なく候や。

答　肉類などを多く食するものにありては殊に野菜菓實等は尤も必要のことです然らされば壞血病を起すことがあります罐詰の菓實は永く置きたるものは假令ひ變味變色はなしとするも幾分の變色を免れませぬ綠色になり居るものゝ如きは銅鹽類にて色着けするものもありて天然の色とまがふ樣にしたのがありますから普通の罐詰の菓實は衛生上よいものとは思はれませぬ。

質問者　關西の一女

問　女の俗に申す癪とは如何なる原因により起るものにや其節の手當法伺上候。

答　癪とは神經作用によりて起ること多きも又消化の惡しきものなど食したるとき胃部の痛みてさしこみ人事不省の有様となることがありますからこの時は早く醫師を迎へて皮下注射をしてもらへば直ぐに治ります其醫師の來る迄の辛棒は胃部をつよく壓して居り又は温かき米飯を布に包み之を胃部即ち（みづをち）に當て居るときは少しは凌ぎよくなります。

質問者　横須賀一會員

問　普通御産をしますには何時間位かゝるものに候や

答　人々によりまして一樣てはありませぬが初めての御産は前に御産じた人よりも時間がかゝります三十歲以上の初産は殊に長いのです先づ大凡初めは十二時間位二度目からは六時間位でしやう併し西洋人の御産は日本の人より永く女の子は男の子より頭が柔らかですから速く生れるものになつております。

中外彙報

催眠術取締に關する建議

國家醫學會にては昨年以來催眠術取締方法に關し研究中なりしが過般同會長片山醫學博士は芳川内相を訪ひ同術研究の結果を陳述して左の建議書を内務省に提出せりといふ

建議書

近頃催眠術を濫用する者有之其弊害も亦尠からざる儀と存候就ては此際政府に於て右に關する取締法を御制定相成候事目下の必要と存候依て之に關する本會員多數の意見別紙の通りに有之候間本會の意見として閣下に建議仕候若し貴省に於ても右取締法御制定の御詮議等有之本會の意見幸に御參考とも相成候はゞ本會の光榮之に過ぎず候敬具

國家醫學會々頭醫學博士　片山國嘉

内務大臣子爵芳川顯正殿

催眠術取締法に關する國家醫學會の意見

第一條　催眠術は疾病治療若くは學術研究の目的を以てするものゝ外之を行ふを得ざると

第二條　醫師にあらざれば疾病治療の目的を以て催眠術を行ふことを得ざること

第三條　醫師にあらざる者は學術研究の目的を以て催眠術を行はんと欲するときは其目的及び期間を詳記して地方廳へ屆出で且つ之を行ふ時は醫師の立會を要すること地方長官は弊害ありと認めたるときは之を差止むることを得ること

第四條　右三條に違背したるものは相當の制裁を加ふること

▲催眠術取締規則　催眠術の流行と共に其の弊害も亦た少からずして文部省は已に教育上より其の利害を醫科大學に諮問するに至りしが今回國家醫學會より同術取締に關し建議書を内務省に提出したるに付き同省にては之れを參考とし取締法制定の主旨にて目下調査中なりと。

▲日本人の養生法　一外字新聞は曰く養生法は歐米人の爲めに好個の模範たるものあり其第一は菜食主義にして日本人の大部は米を常食とし稍や富裕なる者のみ魚肉鷄卵等を副食とするのみ第二は飯料に湯水を多く用ゆることにして是れ腎臟を通じて身體を清淨にする有効なる衞生術なりとす第三は入浴の多きことにして皮膚の清潔を保ち以て健康の要素となすなり第四は新鮮なる空氣を重ずる事是れなり其家屋を見よ殆ど戶外に在るの思あらしむ而して是れ攝生術の最大要素たるなりとありしと。

▲人間はいつ迄壽命を保つべきか　是れ吾人の衞生に注意すると共に研究すべき問題なり日本新聞紙上嘗て論じたることあり吾人の命壽は實際多くの人が生存する年數よりも長きものである今古百歲の壽を保つものは極めて稀れであるが百歲は吾々人間の尋常の壽命である萬有學上の觀察に徵するに總て動物は其の發育に要する歲月に五倍する年月間は生存するものであることゝ知り得る例へば牛は其の發育に四年を要するから四五二十年の壽を保ち馬は發育に五年懸るから五五廿五年駱駝は發育に八年を費すから五八四十年生きるのが普通であるそこで人間が一

人前に發育するには少くも二十年を要するから二十五百年生き延びるのは何も不思議はないのだ然し人間は居常強めて此の自然の生存期限を短縮する樣なとのみを行つて居る人間は壽命の減殺に特効ある慾と謂ふものを充たさんとに努めて居る慾即ち嗜好の中で一番即ち縮めに効の有るのは酒である飲酒家に長壽の者なきとは統計の明に示す所であるバハリア國の民顯府で麥酒を鯨飲する爲毎年貴重の生命を犧牲にする者の數多あるとは同府の死亡統計を見れば好くわかる（全死亡の三分一は麥酒多飲家が占めて居る）麥酒を多飲する者は體格が上等で何も病む所なく極めて健康なものであつても心臟の脂肪變質を起す爲め壯年時に斃死するものが夥しくある麥酒多飲家は長く生きて五十歳までゞあると云ふ然し酒精飲料を適度に用ふる者には長壽を保つものがある百四十歳まで生き延びた者もある、次ぎに煙草はどうであるかと云ふに、或る衛生學者が百歳以上の者を統計して見た時に其の中に唯だ一人喫煙家が在つたと云ふとだ、佛蘭西のフイノオと云ふ學者の說に據ると人間は自分で歳を執つたと想ふから老込むのである自分の心の持ち次第で老いたり若くなつたりするものである故に自分で若いと思つて居つて引込思案をせぬのがよろしい、そうすれば長く若くなつて居ることが出來る、仕事殊に精神上の仕事は廢止せぬ樣にするのが長壽を保つ一方策である、精神上の仕事は人を若からしめ且つ氣力を新鮮にするものである、其の證例は澤山あるが今一例を擧げて觀るのに長年月間役人をして居た者が一旦其の役を罷めると忽ち凋落してしまうのは俄かに常務を廢して精神が弛縱してしまうからであると云ふ、又た同氏の說では一體死と云ふものは無いのである生體は恒に生きて居るものである吾々の身體は決して死滅するものではない唯だ其の形を變へるのみである吾々の體は無數の微細なる細胞と云ふものより成り立つて居るそこで此の細胞と云ふものは絕へず新陳代謝して居る即ち舊いのが潰れて新のが出來て其の缺を補て

居るから吾々の體の表面に於ても內部に在ても死と生と常に行はれて居る吾々の體を形ち造つて居る細胞と云ふ者も又た一の生活體であつて種々の原質から成形されて居る其中で尤も貴要なのはプロトプラスマと云ふものである生活の秘密は此のプロトプラスマの中に在るのであるが此れを組立て居る材料は何も別に不思議な物でもなくやはり二十四元素即ち酸素水素炭素などであるのだそこで吾々が死ぬると云のはつまり此の元素に還元されるのであるから死に由つて形體を變ずるが消滅してしまうのではなくやはり宇宙間に元素と成つて存して居つて新生活體を組立てる基礎に供用されるのである。(日本所載)

▲食慾と消化　食慾が消化を助け消化に對して緊要にして且大なる關係を有する事は世人の熟知する所なるが此頃露國の或る研究家は數多の人に就て味覺、視覺、聽覺等諸種の方法に依りて食慾を催進せしめ置き其胃液を試驗したるに其分泌の最多きのみならず鹽酸とペプシネを最も多く含有し居たりと然れば食慾を催進せしむるは食物消化に密接の關係を有し之れに反し己れの好まざる時又は好まざるものは品質貴きものと雖も消化遲鈍なる事明かなり。

▲ベルツ博士の日本兵評　醫學の泰斗として殊に我國民の體質に就て深き研究を遂げたるベルツ博士は數年前よりして日本歩兵は歐洲最良の歩兵よりも優勝を占む可きことを確信し且つ其理由を菜食に歸したり博士の說に依れば肉食する人は窒素分過多なる爲め耐久力を有せず現に脚足又は登山等に就て日本人の疲勞せざるは菜食の賜なりと博士は北淸事變の際は自己の所信を確むる好時機とし仔細に觀察したるが歐洲兵は一として日本歩兵の耐久力に抗抵し得るものなかりしと云ふ又今回の日露交戰に際しても博士は日本歩兵の必ず露國歩兵よりも體質上より優勝なるべきを豫言し居たりと因に博士は赤城登山を試むるに際し數日間菜食して其耐久力を自驗したる事ありと云ふ此等は將來國民の硏究す可き一點なる

可しと。

▲創傷に對する蠅の害　某當局者の談に戰地に於ける蠅は實に夥しく之れが爲め治術上大に困難なりと其言に曰く、

滿洲に蠅の多きことは豫て聞く所なるが其の群を爲して來襲するの狀は實況を見ざる人の想像にだも浮ばざるべし之が爲め繃帶に蠅蛆の附くには閉口す初めは戰場より收容することの遲き故なるべしと思ひたるに昨今の如き負傷後即刻野戰病院に收容せしものと雖も直ぐ蛆涌き又朝に繃帶を交換し夕には已に蛆を見る有樣にて民家を使用せし野戰病院にては蚊帳を用ひて稍や防ぎ得たるも天幕病院にては此事出來ず中にも金蠅のひりつけたる卵子は發育殊に早きに驚く云々。

▲看護婦の慈愛　第七回目の航海の際收容せられし一患者の書信中醫長は三等軍醫正勝谷端氏にて其部下の醫員も患者を遇すること懇篤なりしが殊に其看護婦の一人の如き患者の例として湯よ便よと彼處此處より呼び立つるを一々如才なく「ハイ〳〵只今々々お母さんも一時に七十名からのお兒さんを設けたのですから忙しいのですよドウゾ待つて下さいよ」と氣も詞も慈母の赤子に於ける如く三晝夜の航海中恩愛溢るゝ許りの看護をなし一同をして其懇篤なるに泣かしめたり爲に一患者の如き其恩に感じてか其姓名を漏らさんことを以てしたるに彼の女微笑して曰く私の姓名を知つて下さるより赤十字社の看護婦といふことをさへ忘れずに居て下されば何よりですと遂に其名を語らず其心根のゆかしさ傷病者も此溫かき介抱に病苦を慰すること夫れ幾何ぞや眞に日本赤十字社看護婦たるに愧ざる言動とこそ云ふべけれ。

▲戰地に於ける脚氣　我海陸軍は久しき經驗により其病理上の當否は暫く措き陸軍は多く麥三米七の食餌を用ゐ來り比較的好果を收めたるが固と統一したる制度ならされは單に各師團の自治に過ぎざることなりしに今回は一般に米食を專らにすることゝなり

しが多分此等の原因なるか脚氣病は非常に續發し當局者は大に考慮を費し居るといふ。

▲傳染病豫防に就ての訓令　傳染病豫防上に就いて足立警視總監は此程各警察署及び分署に訓令したるが其要旨は本年二月時局發展以來傳染病豫防に就ては屢ば訓達したるが猶ほ近時府下の赤痢、腸窒扶斯の病勢を見るに其數俄に增加し來り殊に市内の初發よりの累計赤痢六百卅二人、腸窒扶斯千十八人に上り、此と昨年に比するに赤痢は二倍半、腸窒扶斯は三倍の多きを認む、又郡に於いても赤痢は南葛飾及び西多摩兩郡に頻出し腸窒扶斯は各郡に散發するの狀況たり然るに從來腸窒扶斯に對する消毒は不十分の感あるを免れず且又今後虎列剌發生の虞なきを保せざるを以て目下一層警戒を要すべきの時機に屬す因つて此際傳染病豫防消毒を嚴密にし既に發生したる病毒は速に撲滅の方法を執り遺算なきやう努力せよ。

▲東京市内傳染病患者　東京市内に於ける本年の傳染病患者は著しく其の數を增加し殊に夏季に入りて猖獗を極めんとするの兆ありしかば其の筋に於ても豫防警戒に力め昨今稍衰勢に向へる由目下市立駒込廣尾本所大久保の四病院に收容せる傳染病患者數左の如し（九月六日現在但し腸窒扶斯病の他を除く）

	赤痢	腸窒扶斯	計
駒込病院	六五	一二九	一九四
廣尾病院	三七	二二	五九
本所病院	三〇	五七	八七
大久保病院	四	四	八

又た私立病院の外官私立病院幷に自宅に在つて治療中に係るもの左の如し（九月六日現在）

	赤痢	腸窒扶斯	計
官私立病院	五二	六九	一二一
自宅治療	一五	一〇	二五

右に依れば東京市内に於ける六日現在の患者總數は赤痢二百三名腸窒扶斯二百九十一名計四百九十四名なり。

▲皇太子妃殿下の御下賜　海軍負傷者治療用の御思召を以て皇太子妃殿下より去十三日木綿卷軸繃帶一千卷を海軍大臣へ御下賜せられしに付き即日佐世保

呉海軍病院及病院船神戸丸西京丸へ向け傳送せられたり。

▲高倉典侍の寄附　高倉典侍は去九日篤志看護婦人會へ患者用フランネル冬帽子五百四十個を寄附せりと

▲軍用自動車　戰場にて死傷者運搬の際最も大なる不便は運搬中之を運搬する衞生隊及びその運搬せらるゝ死傷者の途中にて又再び射撃せらるゝにあり是に於てか近頃或る英人の發案にて自動車を裝甲して之れにて死傷者を運搬することにせば危害少なからんと切りに衞生隊用の軍用自動車の工夫中なるが普通の自動車に甲鐵の兩翼を添えしが如きものなりと。

▲惡疫取締の勵行　出征軍人輸送の沿道に於ける防疫事務に關しては其筋に於ては疾に各地方廳に通牒し遺憾なく之れが豫防取締を實施し居れるが今や戰局の進捗に伴ひ名譽の負傷者の送還せらるゝ者益々多きを加へ又一方に於ては過般來軍隊の輸送中にもあり又昨今赤痢腸窒扶斯患者等各地に續發の傾向あるに就き此際一層各地方を通じ一般に飲食物の取締並に清潔消毒法等勵行すべき旨此程衞生局長より各地方廳に通牒せりと云ふ。

▲補充救護員の出發　日本赤十字社にて戰地派遣救護員中病氣其他の事項にて歸國したるものゝ補充として過日來養成中なりし救護員の一部隊は去十三日午後九時卅分新橋發列車にて安東縣へ出向せり。

▲危險なる日本酒　今回東京衞生試驗所に於て東京市内各酒類小賣店より小賣一升の價金二十錢より八十五錢に至るまでのもの百種以上を取寄せサルチール酸の含有量を試驗せし成績を聞くにサルチール酸を含有するは價格の高下に拘はらず其高價のものにありて却て多量を含有するものもあるは危險千万にして既に本年十月より實施せらるゝ（昨年九月内務省令第十號）飲食物防腐劑取締規則に不合格たるべき程多量即ち一石中十匁以上のサリチール酸を含有するもの試驗用百種中十九種以上に及べりとぞ。

●清國公使同仁會に贊助を表す　同仁會副會長片山國嘉氏は豫て同會に於て計畫中なりし清韓兩國病院設置の件に就き理事足立忠八郎氏を伴ひ一昨日清國公使楊樞氏を訪問して其贊助を懇請せしに同公

使は非常の熱心を以て賛助の意を表し且つ早速本國有力家にも賛助方を勸誘する旨を述べ尚大隈會長へ宛てたる該事業に賛成を表する書翰を兩氏に托したりと云ふ。

▲醫術開業試驗志願者　本月執行の醫術開業試驗の受驗者にして東京府廳を經て願書を提出せる總數は千八百十四人なるが内前期七百十五人後期六百六十七人實地二百二十七人齒科百五十五人昨年の同期に比すれば總數に於て八百十一人を減じ就中前期は五百五十二人の減少にして其の原因は時局の影響に依るものなるべし。

▲藥劑師試驗志願者　十月執行の藥劑師試驗の志願者にして東京府廳を經て願書を提出せしものは總計二百九名なりと。

▲産婆看護婦試驗　東京府に於て來る十月五日より執行する秋季産婆試驗は九月中願書を受理し又た十一月七日より執行する看護婦試驗は十月中願書を受理すと。

▲日本醫の信用　同仁會にて清韓兩國に病院を設立せんとし先づ兩國に於ける日本醫の信用如何に就き上海同文書院教習近藤傳五郎氏に托して調査せしめたるに同氏の報告によれば南清各地に在る日本醫と稱するものの中には醫術開業試驗落第者若くは無免許醫多きが爲め同地方にては一般に日本醫の信用薄きも長江附近に於ては日本醫の成功するものを見るのみならず上海に於ける信用は甚だ厚く且つ杭州、蘇州、福州、南潯等に於ける成蹟亦た頗る良好なり現に南京地方に於て成功せし日本醫は醫學士岸廉一、杭州渡邊熙、漢口河野製造の諸氏なり要するに長江一帶の地は日本醫の勢力範圍と謂ふも差支えなしと云ふ。

▲牛疫蔓延の公報　本年兵庫、岡山、廣島、及び東京府下に發生せる牛疫は、漸次蔓延の有樣に付、其筋に於ては夫々豫防法を勵行中なるが、現に東京府下の如きも、猖獗に至らんとする模樣あり、今去る八月廿六日より本月三日迄農商務省へ達したる電報は左の如し。

	發病	斃死	撲殺	感染撲殺
兵庫	四六	七	三九	二四六
岡山	一六	一	一九	三
廣島	二	二	一〇	…
東京	三八	四	三四	一四
合計	一〇八	一四	八八	三七三

▲横濱市の新消毒汽罐　横濱市にては傳染病豫防消毒の完全を期せんが爲め金八千七百餘圓を支出して最新式コルマン形の蒸汽消毒汽罐を購入し南吉田町の消毒所に据付け中なりしが此程竣工したれば技師

をして殺菌試驗を行はしめたるに好成績を得たれば兩三日前より一般傳染病患者の家具を收容して消毒を實行し居れりと。

▲漢口赤十字社特別委員部　日本赤十字社にては日露開戰以來濟國人の入社を申込むもの非常に增加したるため今回漢口に同社特別委員部を設け同地在留領事永瀧久吉氏に委員長に、又同地の社員五名に其委員を囑託したりと。

▲日本花柳病豫防會規則　前號雜誌に其主意書を揭げしが規則書は左の如し。

同會は土肥博士の主唱せられしなるべく國家的尤も急務の會合なれは有志の士奮ふて贊成あらん事を

●日本花柳病豫防會規則

第一章　目的及事業

第一條　本會ノ目的ハ花柳病ノ國内ニ蔓延スルヲ豫防シ且之ニ依リテ生スル危險ヲ制遏セムトスルニ在リ

第二條　本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲メ左記事項ノ遂行ヲ期スルモノトス

一　講話及文書ニ依リテ花柳病ノ本態及危險ヲ普ク國民ニ知ラシムルコト

二　學術上ノ研究及特殊ノ調査ニヨリテ花柳病ノ蔓延及撲滅等ニ關シ必要ナル資料竝ニ立法及行政上ノ基礎トナルヘキ資料ヲ蒐集スルコト

三　花柳病ノ豫防上適當ナリト認ムル諸般ノ事業ハ總テ之ヲ翼贊スルコト

四　一定ノ時期ヲ待テ大會ヲ開クコト

第二章　名稱及事務所

第三條　本會ハ日本花柳病豫防會ト稱シ本部ヲ東京ニ、支部ヲ各地ニ設キ本部事務所ハ假ニ之ヲ東京市本郷區東京帝國大學醫科大學皮膚科敎室内日本皮膚科學會ニ設ク

第三章　役員及集會

第四條　本會ニ會長一名副會長一名幹事二名評議員若干名ヲ置キ任期ハ各一年トシ會長ハ評議員會ニテ之ヲ推選シ其他ハ總會ニ於テ之ヲ選擧ス但シ再選ヲ妨ケス

第五條　會長ハ本會ヲ統轄シ副會長ハ會長ヲ輔佐シ又其職務ヲ代理ス

第六條　幹事會ハ會長、副會長、幹事及評議員ヨリ成立シ本會樞要ノ事務及會計ヲ整理シ且本會ヲ代表スルモノトス

第七條　評議員會ハ會長、副會長、幹事及評議員ヨリ成立シ本會樞要ノ事務ヲ審議ス

第八條　總會ハ每年一回之ヲ開キ其日、時、場所等ハ會長之ヲ定メテ豫メ通知スルモノトス

第四章　會員

第九條　本會ノ目的ヲ贊成スル者ハ何人タリトモ會員タルコトヲ得

第十條　會員ヲ分テ、名譽會員、終身會員、通常會員トシ名譽會員ハ評議員會ニテ之ヲ推選シ、終身會員ハ一時ニ金貳圓以上ヲ納ムル者、通常會員ハ每年金壹圓ヲ納ムル者トス

第十一條　會員若シ退會スルコトアルモ既納ノ會費ハ之ヲ還付セス

大日本婦人衞生會記事

本會例會　炎暑中暫らく休會せしが今や秋冷の好時期となりたれば來十月一日第一土曜日を卜し神田一ツ橋女子職業學校に於て例會を開く出演者は卷首揭出の通り舘ふて來會あらん事を。

新潟支會報告

●新潟支會に於ける海水浴場

仝支會の企てに係る海水浴は非常の好況にて其設備も充分にて同市衞生會の如きも贊同協力して該事業に盡瘁せりといふ今同支會の報告によるに、

一休憩所　間口六間奥行二間半仝所内に溫浴場男女に區分設備しあり

一海中廣さ二十間突出し三十間の周圍筏を浮かせ救護船並に水夫を備ふ

一板道巾一尺五寸長サ四丁餘を設け入場者步行の便を圖る

一日々の入場者平均約二百五十名

因に記す市衞生會も贊同の意を表し協力該事業に盡瘁す

右浴場の寫眞は二葉仝支會より寄送せられたれば次號に揭載せん

米澤支會報告

八月例會

八月十四日第二日曜午後一時より米澤市議事堂に於て例會を開く當日は山形至誠堂病院醫長小兒科專門醫學士藥科松伯君を招待し左の有益なる講話ありて午後四時半散會せり出席講師は高野、宮崎、仁科、楠川、關、高橋、矢尾板、猪股の諸君なりき。

因に記す藥科君は米澤出身にして將來醫家を以て名あり所謂古松伯先生の裔なり今回の招待又故なきに非ずと

當日の演題講師は左の如し

一育兒法の一斑（保養法）　醫學士　藥科松伯君

一繃帶法　講師　高橋達之助君

講師高橋達之助君には今回赤十字社救護班醫員として出征を命ぜられ九月一日午前五時二十分米澤發汽車にて出發致され支會にては遠征を祝する爲め會長始め幹事會員の多數にてステーション迄見送りたり當日は殘暑殊に甚しかりしも出席會員八十餘名及傍聽者の多數なりき

同支會に於ては當月より毎月一回の例會を二回に改め赤十字社看護法實習せんと企圖しつゝありといふ

◎本會入會者

○本會岡田幹事紹介

●牛込區若宮町四十一番地　特別會員　首藤滋子

●本郷區弓町二丁目二十番地　特別會員　田代はる子

○千葉加藤彌壽子紹介

●千葉縣茂原町高師　通常會員　宮崎松枝子

●仝　長谷　通常會員　加藤もと子

●仝　高師　通常會員　菊地とみ子

○芝室友尾子紹介

●芝區櫻川町二番地室氏方　通常會員　山田もと子

○事務所申込

●神田區錦町三丁目佼木館　贊成員　成田文太夫君

●芝區金杉濱町七十二番地十九號　通常會員　田中菊子

●牛込區新小川町一丁目五番地　通常會員　吉野梅子

●長野市石堂町百七十六番地　通常會員　石川壽美子

●長野縣小縣郡長瀨村　通常會員　白井みちを子

○再入

●神田區錦町三丁目大岡氏方　通常會員　塙とせ子

◎高崎支會入會者

○北澤はる子紹介

●高崎市宮元町　通常會員　池田きよ子

◎米澤支會入會者

●米澤市　甲種　志賀よね子

●米澤市　乙種　西たけ子



◎轉居

▲會員諸姉御轉居の際は可成新舊兩所御記入事務所宛御一報相願候

●熊本縣飽託郡大江村九品寺官舍へ　渡邊千賀子

●愛知縣碧海郡知立町へ　中山ふく子

●神田區南乘物町五番地へ　國島梅子

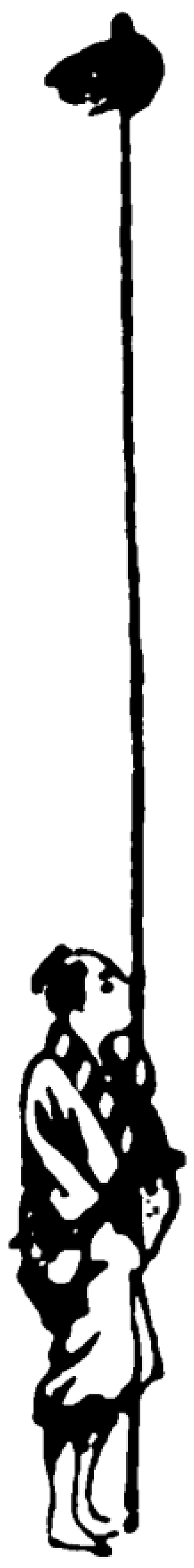
●神奈川縣鎌倉材木座へ　清水すみゑ子

●麻布區三河臺町二十九番地へ　上泉久子

- ●長崎市飽の浦六一六へ　河本梅子
- ●大坂市南區天王寺上ノ宮町五三四八へ　野口瓦子
- ●神田區仲猿樂町十七番地へ　白倉不美枝子
- ●牛込區藥王寺前町五十一へ　岩船良子
- ●小石川區白山御殿町百十番地へ　河津敬子
- ●布哇ホノルヽスカッター氏氣付けへ　樋口つや子
- ●府下大森八景坂へ　北原よし子
- ●相州鎌倉扇ヶ谷へ　藤谷保子
- ●赤坂區氷川町四十五番地へ　磯邊秋子
- ●東京豫備病院澁谷分院第廿八番室へ　青木せつ子
- ●府下荏原郡大井村二三五、泊船寺裏へ　福島つる子

●會員種類變更

●東京日本橋區　通常より(特別會員)に改む　中野吹子



●交換寄贈雜誌　(八月分)

- ●日本赤十字　京橋區築地二ノ廿一　日本赤十字發行所
- ●統計集誌　京橋區山城町六　東京統計協會
- ●をんな　麹町區下二番町三七　大日本女學會
- ●大坂醫學會雜誌　大坂東區淡路町一ノ卅八　大坂醫學會
- ●通俗衛生　大坂西區土佐堀通三ノ元　大坂私立衛生會
- ●藥學雜誌　牛込區下宮比町八　日本藥學會
- ●國家醫學會雜誌　本郷區富士町一　國家醫學會雜誌發行所
- ●婦人世界　大坂南區鰻町通四ノ九七頂　菲婦人會
- ●産科婦人科學雜誌　日本橋區濱町三ノ七　産科婦人科學會
- ●佛教文藝　府下豐島郡巣鴨町　佛教發行所
- ●朝行會叢誌　芝區三田綱町一　朝行會叢誌出版部
- ●婦女新聞　牛込區東五軒町四十一　婦女新聞社
- ●愛國婦人　麹町區飯田町一丁目　愛國婦人發行所
- ●藥石新報　大坂西區江戸堀下通　藥石新報社
- ●工手の母　大坂北區西野田新家四の町　工手の母新報社
- ●草樂新聞　大坂南區心齋橋筋　草樂新聞社
- ●家庭新聞　熊本市北新坪井一三一　家庭新聞社
- ●兒童教育　神田區末廣町十　兒童新聞社
- ●日本女學生　本郷區東片町一三三　日本女學生會
- ●日本婦人　府下澁谷村字常磐松御料地内　帝國婦人協會
- ●京濱實業新報　神田區北神保町八　京濱實業新報社
- ●東京藥事新報　京橋區楠町四　東京藥事新報社
- ●東京教育雜誌　神田區錦町一ノ二十　東京教育雜誌發行所
- ●體育　府下荏原郡大井村字北濱川　日本體育會
- ●大日本私立衛生會雜誌　京橋區宗十郎町七　大日本私立衛生會
- ●婦人新報　赤坂區榎坂町五　婦人新報社
- ●産婆學雜誌　日本橋區濱町三ノ七　日本産婆學協會
- ●廣島衛生醫事月報　廣島市猫屋町　廣島衛生醫事月報社
- ●越佐教育雜誌　新潟市東仲通一番町　越佐教育雜誌社
- ●婦人と子ども　本郷區女子高等師範學校内　フレーベル會
- ●神經學雜誌　小石川區駕籠町　日本神經學會
- ●新潟縣衛生會雜誌　新潟縣廳内　新潟縣衛生會
- ●婦人　神戸市三ノ宮町一丁目　婦人協會
- ●日本橋區衛生協會雜誌　日本橋區蠣殻町二丁目　日本橋區衛生協會
- ●家庭割烹新聞　神田區佐久間町四ノ六　家庭割烹實習會
- ●心疾者の救護　小石川區駕籠町　精神病者慈善救治會
- ●福田會月報　麻布區笄町百三　福田會育兒院
- ●牟婁新報　和歌山縣西牟婁郡田邊町　牟婁新報社
- ●帝標新報　日本橋區本銀町四丁目　帝標部社



出版廣告

故長與專齋先生遺著　全壹册既刊

松香私志

正價　金四拾錢
郵稅　金四　錢

洋裝菊判二百頁肖像筆蹟及塋域の寫眞入

本書は長與專齋翁の遺著にして曾て孝嗣醫學博士稱吉君が出版されしものなるか今回更に同君より其版權を寄附せられたるに依り當文庫より再版に附することゝなれり

翁が終生本邦の醫務衛生の事に就て苦心焦慮以て其一生面を開き大に世を益せられたるは普ねく世人の知る所なり本書の名私志と云ふと雖も其實本邦の衛生小史と謂ふへきなり且此再版には翁の肖像親筆及其塋域の一斑を併せ掲げたり希望の諸君は當文庫へ申込まるへし

但御申込の節は必らす前金御送付の事

東京市京橋區宗十郎町七番地
大日本私立衛生會内（電話新橋二七四）

長與衛生文庫

私立大日本婦人衛生會新潟支會規則

●第一條 本會は大日本婦人衛生會に隷し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり●第二條 當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓 特別會員毎月金參拾錢 通常會員金貳拾錢 支會員甲毎月金拾錢乙金五錢●第三條 入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし●第四條 會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す●第五條 會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす●第六條 支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條 支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演説をなすべし●第八條 毎年一月總會を開き支會の要務を舉行す●第九條 本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條 天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄附を募ることあるべし會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は賛成員となすべし●第十一條 一般慈善事業の賛助 天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす●第十二條 支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし●第十三條 特に本規則に掲げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

事務所新潟市學校町二番町四十七
和田くに子方

明治廿九年四月創立

新潟支會

私立大日本婦人衛生會高崎支會規則(明治三十五年四月創立)

●第一條 當支會は大日本婦人衛生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ兼て社會全般の幸福を増進するを目的とす●第二條 當支會は大日本婦人衛生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄合町五十番地に置く●第三條 當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す●第四條 本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三個月分以上の會費を添へ申込まるべし●第五條 當支會に學術其の他の補益を與へらるゝ人士を推して顧問又は篤志賛助員となす●第六條 當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし●第七條 支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名●第八條 役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す又幹事評議員は役員中より會長之を指名す 但役員の任期を一箇年とし再撰するを得●第九條 本會の特別賛成員を定員外の評議員とす●第十條 當支會は毎月一回評議會を開き 毎年一回總會を開く者とす總會に於ては評議の外役員の改撰會務の報告等をなす●第十一條 會員及賛成員の家族並に篤志賛成員は集會に參列するを得 但時宜により男子の參列は謝絕することあるべし●第十二條 本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として 一箇月金五錢を出す者とす●第十三條 總て會費の徵收は集會の席上に於てするを例とす但三箇月分以上先前納すべし●第十四條 支會の所有金は支會の名儀を以て銀行に預け置くものとす●第十五條 會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す●第十六條 本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは 衆議に諮るものとす●第十七條 會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に履行すべし● 第十八條 特に此規則に掲げざる者は本會の規則を準用す

●事務所 高崎市寄合町五十番地

高崎支會

私立大日本婦人衞生會

山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衞生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事商議員は會長之を撰任す 役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし 本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出つべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは 其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精誠質素なるを要す上盜及羽織は絹布を用ひるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築西通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衞生會

宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衞生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス 各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條 毎月壹回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ本支會ヲ脫會又ハ本會ヲ退會セントスルトキハ其旨事務所ニ屆出ツベシ●第五條本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會々費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又タハ知合ノ婦人ヲ誘引シ陪聽セシムベシ●第八條服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上着及羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ第九條特ニ支會規則ニ揭ケザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

事務所宇都宮市馬場町

明治三十四年二月三日創立 宇都宮支會

私立大日本婦人衞生會

米澤支會規則

第一條 當會ハ私立大日本婦人衞生會米澤支會ト稱シ衞生上ノ研究ヲ目的トシ互ニ智識ヲ交換シ社會ノ幸福ヲ增進スルニアリ

第二條 支會事務所ハ當時假ニ當時免許町一三六九番地猪股方ニ置ク

第三條 當支會ニ會長一名副會長一名幹事五名ヲ置ク其任期ハ各一年トス

第四條 毎月一回(第二日曜午後一時ヨリ四時迄)講話會ヲ開キ毎年五月總會ヲナシ役員改撰庶務會計等ノ報告ヲナス

第五條 入會ハ會員ノ紹介ヲ經テ宿所姓名ニ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込又退會セントスル者ハ其旨事務所ニ屆出ヘシ

但シ已納ノ會費ハ返附セス

第六條 當支會ノ會費ハ左ノ三種トシテ特別會員毎月金參拾錢通常會員甲毎月金拾五錢乙毎月金五錢前納スルモノトス

但會費拾五錢以上納ムル者ニハ本會雜誌ヲ配附ス

第七條 會費ハ雜誌料トシテ本會ヘ納メ一部ハ支會經費ニ充テ殘餘ハ銀行ヘ貯蓄シテ支會事業ノ資金トナス

第八條 會員及員外篤志者ヨリ金品ノ寄附アル時ハ役員協議ノ上特待員又ハ贊成員トナスヘシ

第九條 講話ノ節ハ汎ク婦人ノ傍聽ヲ許ス

第十條 支會々員ノ質素ヲ旨トシ集會ノ際ハ可成木綿服ヲ着用スルヿ

第十一條 特ニ支會則ニ揭ケサルモノハ本部ノ會則ヲ準用ス

事務所米澤市免許町一三六九

米澤支會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は左の實價を以て會員に頒つ



●本會徽章料左の如し

●通常會員章

第三號メッキ製拾二錢、送費六錢

●第二號正銀製四拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章

第一號七十錢（黑檢箱入送費九錢）

六十錢（桐箱入送費六錢）

●入會注意

●御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるへし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料をも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京麹町飯田橋通）宛振出あるべし又た價格表記通運便、何にても差支なし●會費受領證を要する節は送費として郵劵一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌進呈の事

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾圓半頁其二分一以下同之

本誌一部定價貳拾錢

東京市麹町區飯田町六丁目三番地
發行所　私立大日本婦人衛生會

東京牛込區矢來町三番地
編輯兼發行人　田中德三郎

東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
印刷人　渡邊智

明治三十七年九月二十日印刷及發行（毎月一回二十日發行）
婦人衛生雜誌第百七拾八號

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場印刷